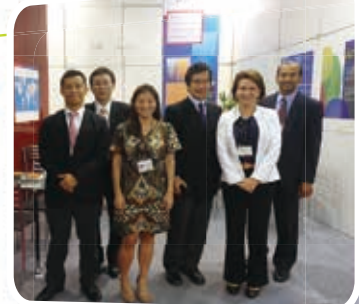




CSR レポート 2013

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY



CONTENTS

トップコミットメント	2
海外展開でますます多様化するステークホルダーの声にしっかりと耳を傾け、 ADEKAならではの企業活動を通じて、持続可能な社会的価値を創出する 「グッドカンパニー」を目指します。	
暮らしの中のADEKA	4
ADEKAの海外ネットワーク	6
ADEKAグループのCSRと中長期ビジョン	8
中期経営計画	
2016年度売上高3,000億円のグッドカンパニーを目指して	10
中期経営計画「STEP 3000」達成に向けた活動	12
5つの基本方針	
海外 グローバリゼーションの拡大とローカライゼーションの加速	14
投資 持続的な成長に向けた投資によるビジネスの拡大	17
技術 基盤・コア技術の深耕によるイノベーションの創出	18
価値創造 お客様との連携強化による存在感の向上に向けて	20
人財 グローバルビジネスを牽引する次世代リーダーの育成	21
製品の安全性確保と品質向上	22
環境保全への取り組み	24
働きやすい職場づくり	28
ステークホルダーとのコミュニケーション	32
CSRマネジメント	34
第三者意見／第三者意見をいただいて	36
財務データ	37

編集方針

ADEKAグループは、経営理念に基づく企業活動全般を通じて、「社会との融和」と「人と技術の優しい調和」を図り、健康で豊かな社会の実現を目指すことをCSRの基本方針としています。

「CSRレポート2013」では、このような理念や方針に基づく当社ならではの取り組みとして、2012年4月にスタートした中期経営計画「STEP 3000」の概要と「海外」「技術」「価値創造」「投資」「人財」の「5つの基本方針」に沿った活動の進捗状況を中心に紹介しています。

また、「CSRレポート2013」は下記のガイドラインを参考としていますが、より読みやすく、分かりやすいレポートとなりますよう、本冊子版では読者の皆様にぜひお伝えしておきたい取り組みについて重点的に掲載しています。なお、ウェブサイトでは環境関連のより詳細なデータを掲載しています。(2013年9月から掲載)

よりよい報告書を目指して今後も努力してまいりますので、私どもADEKAグループに向けての皆様の忌憚のないご意見、ご感想など、巻末のアンケート用紙を通じてお寄せいただければ幸いです。

報告対象範囲

ADEKAグループ全体を対象としますが、特に対象範囲を明示する必要があるときは、グループ全体を指す場合には「ADEKAグループ」または「当社グループ」、(株) ADEKA単独を示す場合には「ADEKA」または「当社」と表記しています。なお、環境マテリアルフローデータの報告は、ADEKAおよび国内主要グループ会社10社を対象としております。

報告対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)

※一部、2013年度における直近の活動を含む記述もあります。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3.1版」
(財)日本規格協会「ISO26000:2010社会的責任に関する手引き」

発行日:2013年7月

次回発行予定:2014年7月

※ ADEKAグループCSRサイト(<http://www.adeka.co.jp/csr/index.html>)

※ 財務に関する情報につきましては

「投資家情報(<http://www.adeka.co.jp/ir/index.html>)」もあわせてご参照ください。



ADEKA本社

企業概要

会社名	株式会社ADEKA
設立	1917年1月27日
代表者	代表取締役社長 郡 昭夫
本社所在地	東京都荒川区東尾久七丁目2番35号
資本金	228億99百万円(2013年3月末現在)
発行済株式総数	103,651,442株(2013年3月末現在)
連結従業員数	3,027名(2013年3月末現在)

トップコミットメント

海外展開でますます多様化する

ステークホルダーの声にしっかりと耳を傾け、

ADEKAならではの企業活動を通じて、

持続可能な社会的価値を創出する

「グッドカンパニー」を目指します。

代表取締役社長 **郡 昭夫**



2012年度を振り返って

ADEKAグループは創立100周年を迎える2016年度における「ありたい姿」として「売上高3,000億円のグッドカンパニーを目指す」という中長期ビジョンを掲げています。2012年度は中期経営計画「STEP 3000」を定めて、この中長期ビジョンに着実に近づくための、2014年度における「あるべき姿」を示し、「5つの基本方針」(海外・技術・価値創造・投資・人財)に沿った施策を実行しました。(p10-13をご参照ください)

なかでも当社が今後も持続的に成長していくために加速化を図っている海外展開については、米国、ブラジルおよびマレーシアなどの国々において、事業買収や新会社・合併会社を設立するなど、将来の成長に向けた投資を戦略的に推進しました。また、樹脂添加剤事業のグローバルテクニカルセンターとなる浦和開発研究所の新研究棟を完成させ、韓国ではR&D拠点の拡充を図るなど、高度な顧客ニーズに迅速にお応えする製品開発体制を強化しました。

“グッドカンパニー”を目指す私たちの挑戦

「売上高3,000億円のグッドカンパニーを目指す」という中長期ビジョンにおいて重要なのは、技術力のさらなる向上や体力の強化、海外展開および新規分野を含む事業拡充などの思い切った施策を通じて企業価値を高めていくこと——つまり、3,000億円の価値を創出するに相応しい経営体質や企業文化を備えた“グッドカンパニー”となることにほかなりません。

「売上高3,000億円」という目標については、けっして数字だけが独り歩きすることなく、目標達成に向けて、あと1,000億円あまりを積み上げていくには何が足りないのか、具体的にどのような努力が必要かということ、既成概念や旧習にとらわれずに考え、積極果敢に行動していくことが求められています。つまりこのビジョンは、オールADEKAの組織的な“変革”を促すものであると同時に、従業員一人ひとりの“挑戦”を促すものと言えます。

社会的価値を最大化するバリューチェーンの構築を目指して

顧客満足度の高い製品・技術・サービスを提供して、企業の持続性に関わる利潤を適正かつ継続的に獲得することは経営の最重要課題であり、顧客満足度を高めるには、まずお客様のことをよく理解し、相手の立場になって課題解決のための提案をしていくことが必要です。

これについては、CSR活動全体を通じて同じことが言えます。CSRとは、企業活動を通じ、社会(=ステークホルダー)と分かち合うことのできる価値を創造していくことで、企業価値を高めつつ、経営理念の実現と持続可能な社会を目指していくことと考えますが、その前提として、企業活動によって生ずるプラスマイナスの影響といった課題をステークホルダーの視点から捉え、その解決に取り組む努力を続けることは極めて重要です。

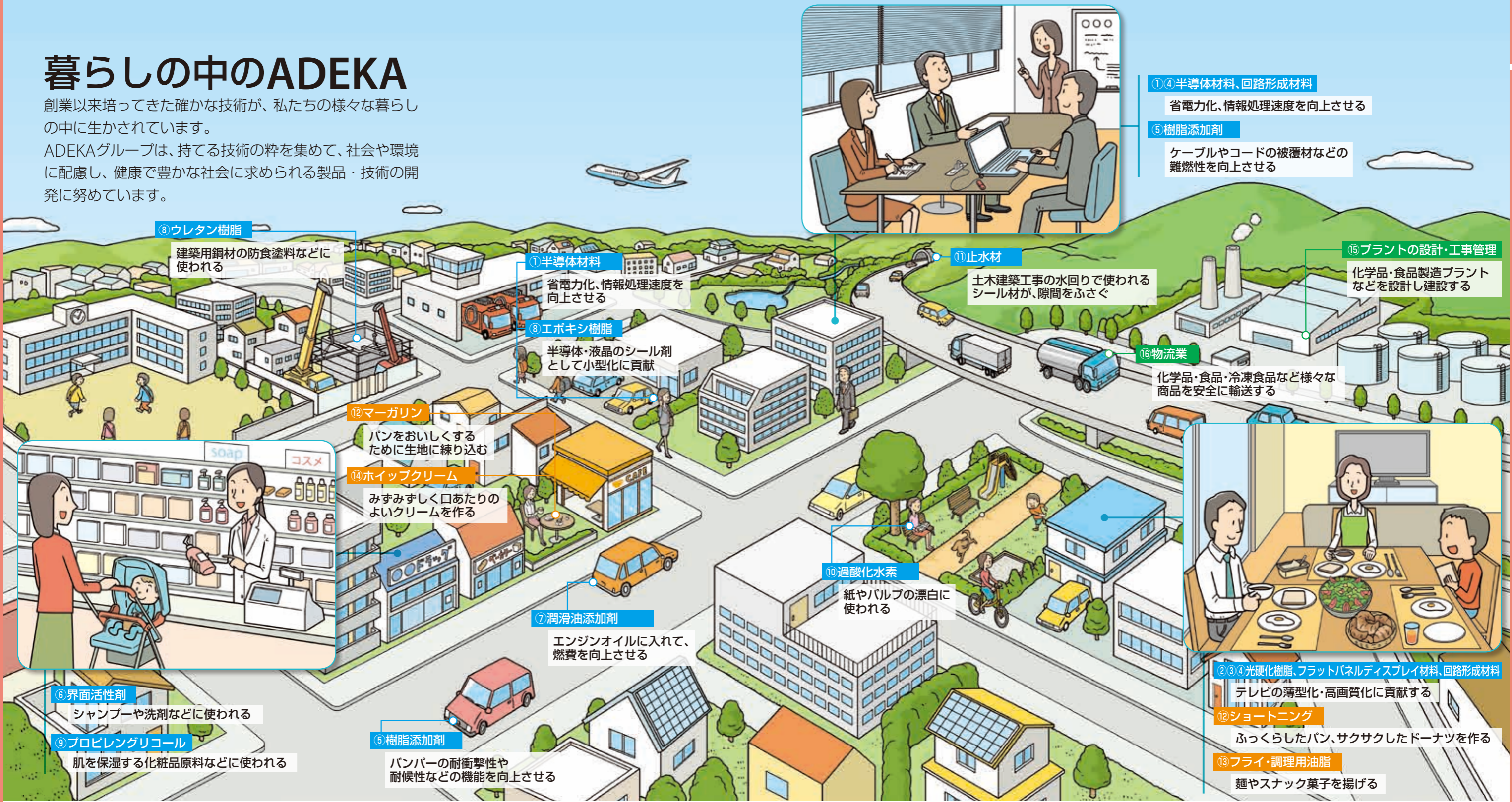
先に述べた海外展開など、企業活動の拡大とともにサプライチェーンが広がることによって、ステークホルダーに影響を与える範囲もまた必然的に広がっていきます。そうした中で私たちはあらゆる活動を通じて人権に配慮しつつ、ますます多様化するステークホルダーの声にしっかりと耳を傾け、PDCAサイクルによる検証とあくなき改善に力を注ぎ、企業活動を通じて創出する社会的価値(バリュー)を最大化するための“バリューチェーン”を構築していかねばなりません。

これもまた“グッドカンパニー”を目指す私たちの“挑戦”と捉え、社員一丸となって真摯に取り組んでまいります。

暮らしの中のADEKA

創業以来培ってきた確かな技術が、私たちの様々な暮らしの中に生かされています。

ADEKAグループは、持てる技術の粋を集めて、社会や環境に配慮し、健康で豊かな社会に求められる製品・技術の開発に努めています。



①④半導体材料、回路形成材料
省電力化、情報処理速度を向上させる

⑤樹脂添加剤
ケーブルやコードの被覆材などの難燃性を向上させる



①半導体材料
省電力化、情報処理速度を向上させる

⑪止水材
土木建築工事の水回りで使われるシール材が、隙間をふさぐ

⑮プラントの設計・工事管理
化学品・食品製造プラントなどを設計し建設する

⑧ウレタン樹脂
建築用鋼材の防食塗料などに使われる

⑧エポキシ樹脂
半導体・液晶のシール剤として小型化に貢献

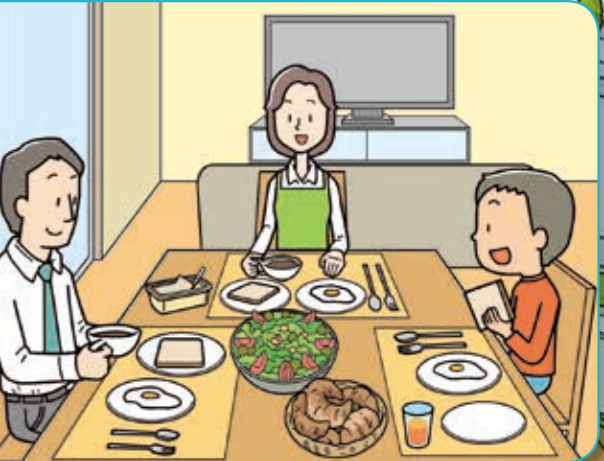
⑯物流業
化学品・食品・冷凍食品など様々な商品を安全に輸送する

⑫マーガリン
パンをおいしくするために生地に練り込む

⑭ホイップクリーム
みずみずしく口あたりのよいクリームを作る

⑩過酸化水素
紙やパルプの漂白に使われる

⑦潤滑油添加剤
エンジンオイルに入れて、燃費を向上させる



②③④光硬化樹脂、フラットパネルディスプレイ材料、回路形成材料
テレビの薄型化・高画質化に貢献する

⑫ショートニング
ふっくらしたパン、サクサクしたドーナツを作る

⑬フライ・調理用油脂
麺やスナック菓子を揚げる

⑥界面活性剤
シャンプーや洗剤などに使われる

⑨プロピレングリコール
肌を保湿する化粧品原料などに使われる

⑤樹脂添加剤
バンパーの耐衝撃性や耐候性などの機能を向上させる

化学品事業

情報・電子化学品

液晶テレビやパソコン、スマートフォンをはじめとする多くの電子機器向けに、最先端の技術を駆使した製品を提供しています。なかでも半導体材料は、世界最高レベルの品質を誇っています。

- ①半導体材料
- ②光硬化樹脂
- ③フラットパネルディスプレイ材料
- ④回路形成材料

機能化学品

プラスチックの高機能化に欠かせない樹脂添加剤の総合メーカーとして、多くの製品を製造しています。また、当社独自の技術で開発した自動車のエンジンオイル添加剤や、安全性に配慮した高機能の化粧品原料などを提供しています。

- ⑤樹脂添加剤
- ⑥界面活性剤
- ⑦潤滑油添加剤
- ⑧エポキシ樹脂、ウレタン樹脂

基礎化学品

石鹸・洗剤などの日用品から、IT・エレクトロニクスまで、幅広い分野に製品を提供し、産業の発展に貢献しています。化粧品などに使われているプロピレングリコールは、当社が初めて国産化したものです。

- ⑨プロピレングリコール
- ⑩過酸化水素
- ⑪止水材

食品事業

食品

「おいしさと安心のベストパートナー」をモットーに、常に業界をリードする食品素材を開発しています。製菓・製パンメーカーへ加工油脂や加工食品などを提供し、安心・安全で豊かな食生活の実現に貢献しています。

- ⑫マーガリン、ショートニング
- ⑬フライ・調理用油脂
- ⑭ホイップクリーム

その他事業

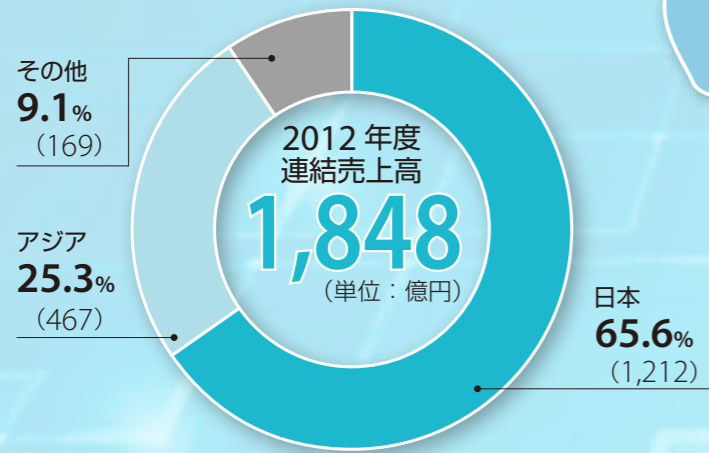
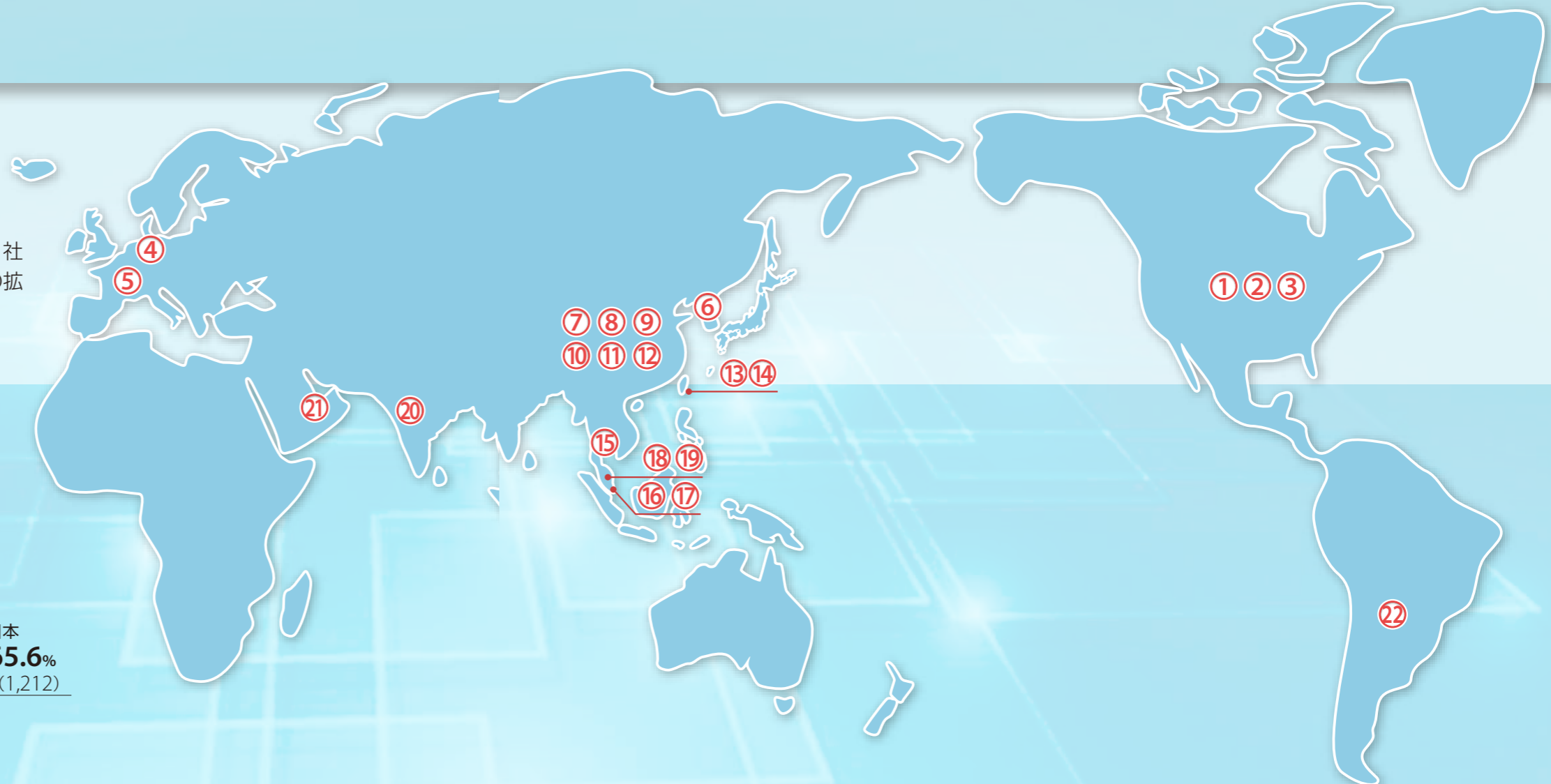
その他

工場施設や設備プラントの設計、設備メンテナンス、物流業務、保険代理業務を中心に事業を進め、そのノウハウをベースに様々な分野のお客様にサービスを提供しています。

- ⑮プラントの設計・工事管理
- ⑯物流業
- 不動産業
- 保険代理業

ADEKAの海外ネットワーク

「世界とともに生きる」企業として、12か国に配置した22社の海外拠点のネットワークと連携しながら、事業領域の拡大と積極的な海外展開を行っています。



米国

① ADEKA USA CORP.
設立 2004年1月 事業内容 化学製品の販売

② AMFINE CHEMICAL CORP.
設立 1994年3月 事業内容 樹脂添加剤の製造・販売



③ AM STABILIZERS CORP.
設立 2012年5月 事業内容 樹脂添加剤の製造・販売

④ ADEKA EUROPE GmbH
設立 1999年4月 事業内容 化学製品の販売

⑤ ADEKA PALMAROLE SAS
設立 2000年9月 事業内容 樹脂添加剤の製造・販売



韓国

⑥ ADEKA KOREA CORP.
設立 1991年11月 事業内容 化学製品の製造・販売



中国

⑦ 艾迪科(上海)貿易有限公司
設立 2001年12月 事業内容 化学製品の販売

⑧ 艾迪科精細化工(上海)有限公司
設立 2002年8月 事業内容 化学製品の製造・販売



台湾

⑨ 艾迪科精細化工(常熟)有限公司
設立 2003年5月 事業内容 樹脂添加剤の製造・販売



⑩ 艾迪科食品(常熟)有限公司
設立 2004年5月 事業内容 加工油脂の製造・販売



⑪ 長連旭(上海)貿易有限公司
設立 2004年4月 事業内容 化学製品の販売

⑫ 國都化工(昆山)有限公司
設立 2002年4月 事業内容 機能性樹脂の製造・販売



台湾

⑬ 長江化学股份有限公司
設立 1989年10月 事業内容 化学製品の販売

⑭ 台湾艾迪科精密化学股份有限公司
設立 2004年11月 事業内容 化学製品の製造・販売



タイ

⑮ ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO., LTD.
設立 2004年6月 事業内容 樹脂添加剤などの製造・販売



シンガポール

⑯ ADEKA (ASIA) PTE. LTD.
設立 2003年9月 事業内容 化学製品の販売

⑰ ADEKA (SINGAPORE) PTE. LTD.
設立 1988年7月 事業内容 加工油脂、加工食品の製造・販売



マレーシア

⑱ ADEKA FOODS (ASIA) SDN. BHD.
設立 2012年11月 事業内容 加工油脂の製造・販売

⑲ FELDA IFFCO OIL PRODUCTS SDN. BHD.
設立 1975年10月 事業内容 パーム油の精製分別



インド

⑳ ADEKA INDIA PVT. LTD.
設立 2007年9月 事業内容 化学製品の販売

アラブ首長国連邦

㉑ ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC
設立 2011年4月 事業内容 樹脂添加剤の製造・販売



ブラジル

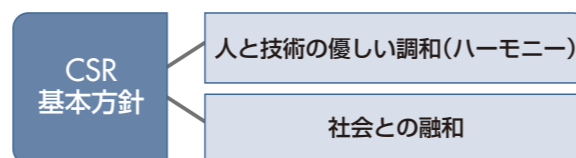
㉒ ADEKA BRASIL LTDA.
設立 2012年7月 事業内容 ADEKAグループ製品の販売支援および市場開拓

ADEKAグループのCSRと中長期ビジョン

ADEKAグループのCSRは、経営理念の実現を真摯に目指すものです。中長期的な視点で策定した経営ビジョンは、経営理念に掲げた「企業としての理想像」に近づいていくためのものであり、そこで示される具体的な戦略や方針もまたADEKAグループのCSRそのものと言えます。

経営理念とCSR基本方針

ADEKAグループは、「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」「世界とともに生きる」を経営理念として、世界市場で競争力のある技術優位な製品群を中心にグローバルな企業活動を展開しています。



ADEKAグループは、常に「潮流の変化を鋭敏」に捉え、環境や社会に及ぼす影響に配慮しながら、新しい製品・技術の創出を目指しています。社会が必要とし、社会にとって価値のあるものを提供していかなければならないと考えており、よりよい社会の構築を目指す企業として、「人と技術の優しい調和(ハーモニー)」を優先すべきと考えています。

また、「世界とともに生きる」企業として、製品・技術面からの社会貢献に加えて、環境や社会に関する様々な問題に対しても「社会との融和」を図り、ステークホルダーとともに、共有価値を創出していく企業努力を続けるべきだと考えています。

ADEKAグループのCSRは社会との「共有価値の創造」

ADEKAグループが取り組むCSRは、「経営理念のもと、持続可能な社会に向けて、当社固有の技術や製品・サービス、人財などをもって社会の課題解決にあたり、社会と共有できる価値を創出することで、企業価値を高めていく」ことを目指す取り組みです。

私たちが創出すべき「共有価値」とは、収益性などの「経済的価値」のみならず、人権の尊重や働きがいのある職場づくりといった「人間的価値」、さらには公正で開かれた経営の実践、地球環境の保全などを含む「社会全体の価値」です。こうした価値を創出していくことで「社会に必要とされる企業」となることを目指します。

また、「共有価値」を創出していく前提として、化学品や食品の原料を提供する当社のCSRにおいては、直接的なユーザーや調達先ばかりでなく、エンドユーザーや地域社会など「川上」から「川下」までを含むバリューチェーン全体に視野を広げ、ステークホルダーの声に真摯に耳を傾けながら、当社の企業活動による影響についてしっかりと把握することも必要であると認識しています。

中長期ビジョンの策定

CSRの理念のもと、私たちが理想とする企業像に一步步近づくため、「2016年度のありたい姿」として「中長期ビジョン」を策定しています。

中長期ビジョン

2016年度売上高3,000億円のグッドカンパニーを目指す
～私たちは人々の豊かな生活の実現に向け、戦略分野No.1に挑戦し、価値を創造します～

ADEKAグループでは、2006年度から、「2017年1月の創立100周年までに売上高3,000億円企業になる」という目標を掲げ、そのための様々な「成長への布石」を打ってまいりました。

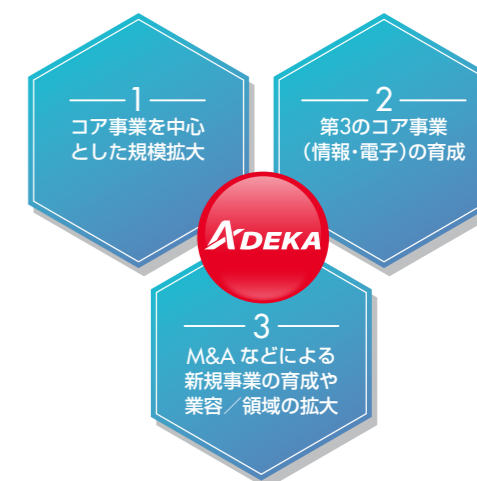
私たちが目指す「グッドカンパニー」とは、3,000億円企業に相応しい「実力」「活力」「安定性」を備えた様々な「価値」を創造する企業グループとなることです。

ADEKAグループが強みを生かせる戦略分野を事業ごとに再定義し、その分野でNo.1に挑戦し続けることで、お客様をはじめステークホルダーの皆様に対して新たな価値を創造していきます。

前述した経営理念やCSRの基本方針に基づき、本業を通じて「ADEKAにしかできない価値」をステークホルダーとともに創造していくことで、社会に大いに貢献し、グローバルレベルにおいてADEKAグループの存在価値を高めていきます。

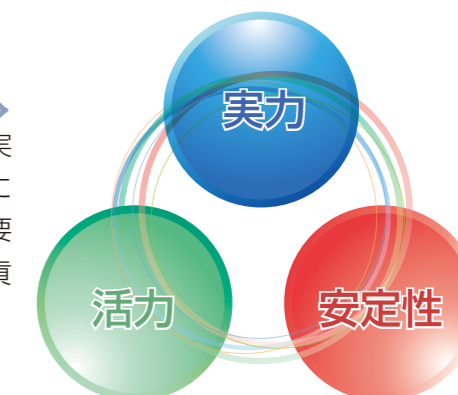
中長期経営ビジョンの実現に向けた3つの基本戦略

- 1 コア事業に位置づけている樹脂添加剤事業、食品事業を中心に、さらなる規模拡大を図り、2016年度までに2011年度の売上高の倍増を目指します。
- 2 情報・電子化学品事業を早期に2011年度の3倍程度の売上規模に拡大させ、コア事業へと成長させます。
- 3 外部資源の有効活用、事業拡大・成長の観点からも、M&A・アライアンスを重要な経営手段として位置づけ、積極的に実施してまいります。



「グッドカンパニー」とは

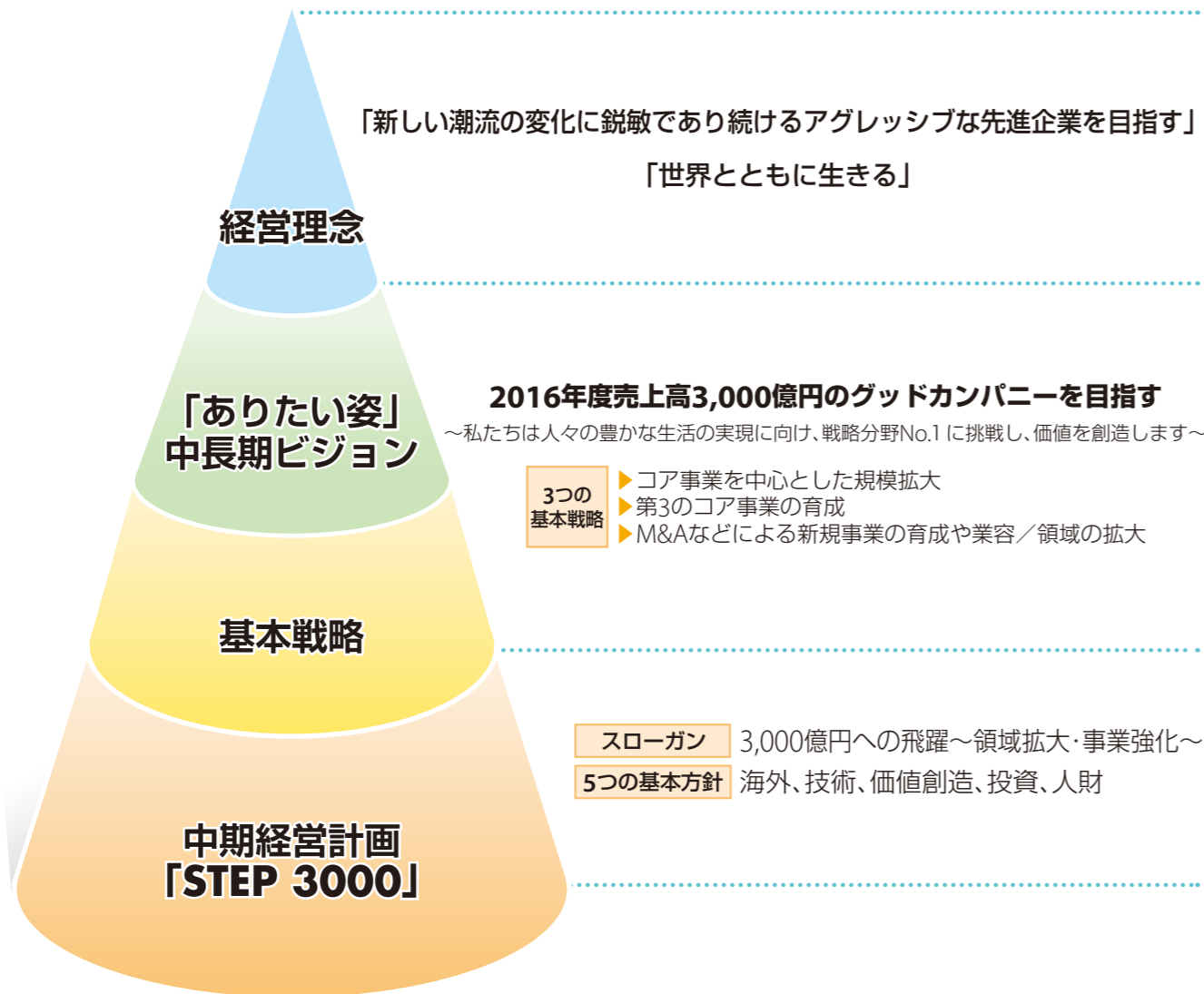
研究開発投資や設備投資などにより事業規模を拡大できる「実力」と、従業員のモチベーションが高い「活力」、外部環境の変化に強く、売上や利益が安定的・継続的に得られる「安定性」の3つの要素を兼ね備え、グローバルで存在感のある企業として、社会に貢献し、成長し続ける企業



中期経営計画

2016年度 売上高3,000億円の グッドカンパニーを目指して

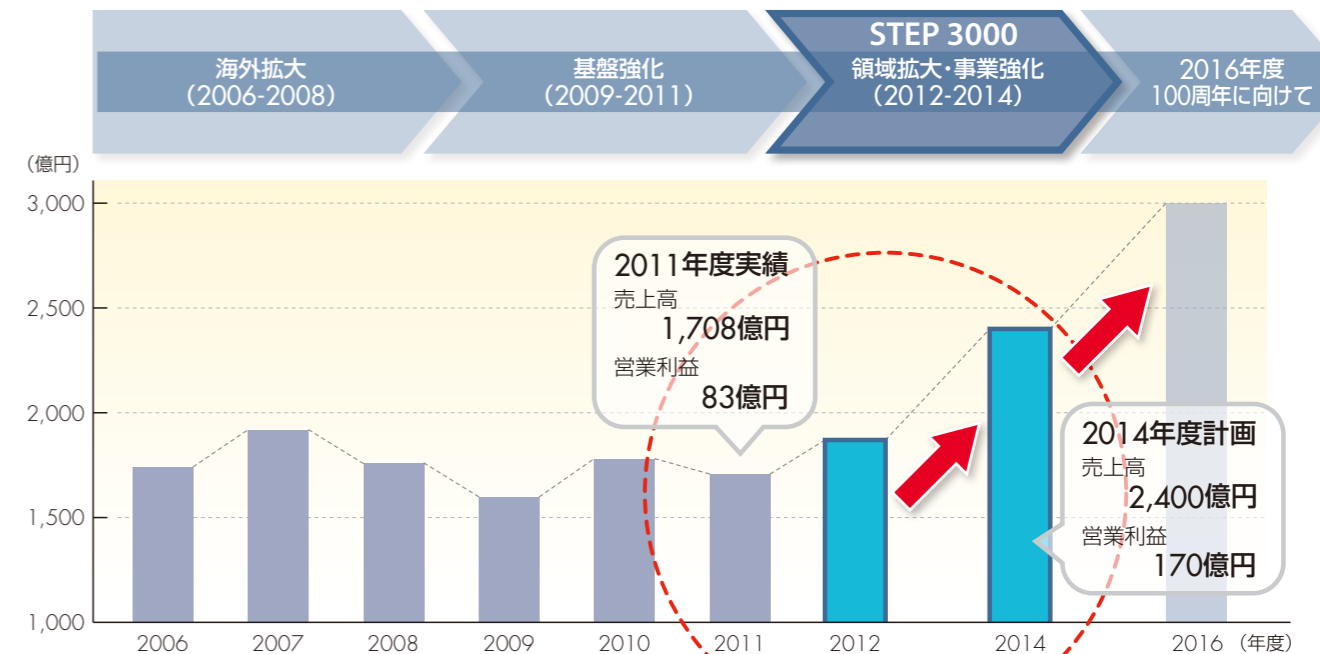
2016年度に創立100周年(1917年1月27日設立)を迎えるADEKAは、「2016年度のありたい姿」として策定した「中長期ビジョン」を実現させるため、2012-2014年度中期経営計画「STEP 3000」を立案しました。本中期経営計画期間を「確固たる施策を打ち出す時期」と位置づけ、ADEKAグループの大いなる飛躍に向けて、事業領域の拡大と強化を推進してまいります。



STEP 3000の数値目標

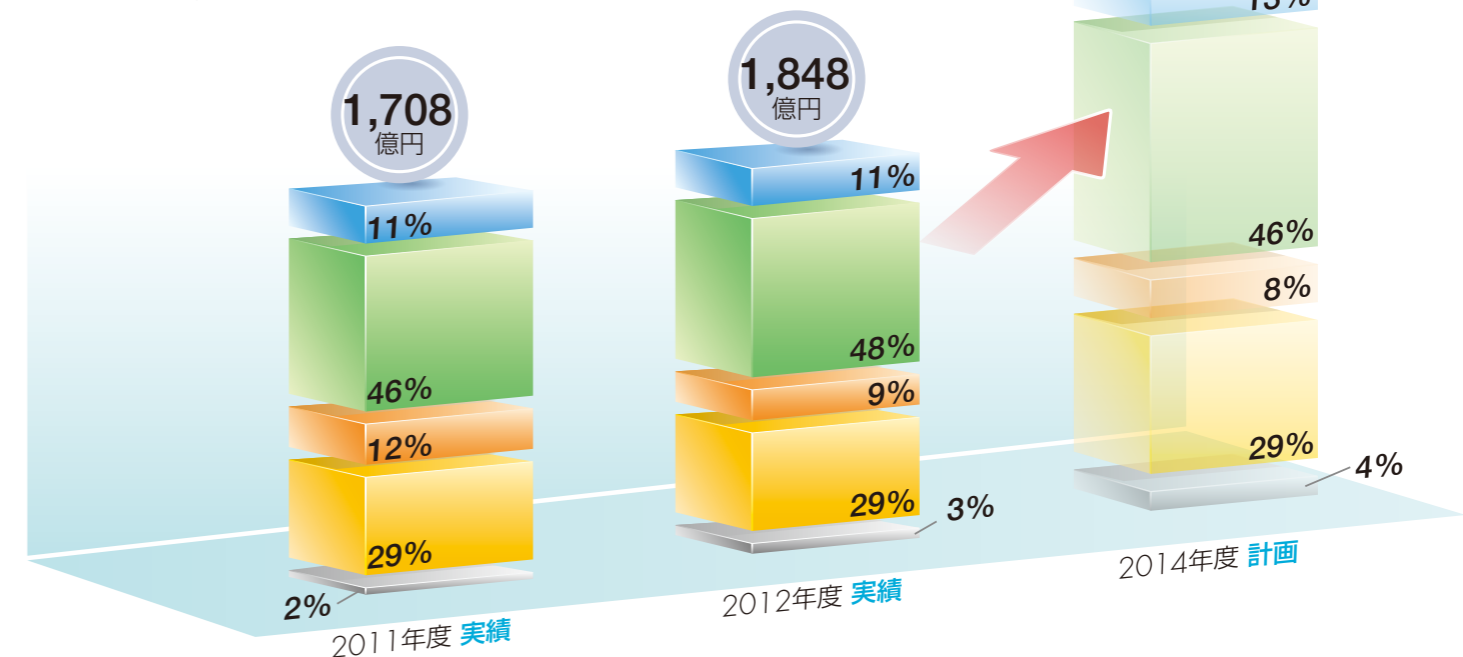
STEP 3000では、成長戦略である「新製品の創出」と「海外事業の拡大」を強力に推し進めていくとともに、「海外」「技術」「価値創造」「投資」「人財」の5つの基本方針に基づき、2014年度には連結で売上高2,400億円、営業利益170億円の達成を目指します。

各年度の連結売上高



	2011年度 (実績)	2012年度 (実績)	2014年度 (計画)	2016年度 (参考)
売上高	1,708	1,848	2,400	3,000
営業利益	83	98	170	240
営業利益率	4.9%	5.3%	7%	8%

情報・電子 機能化学品
基礎化学品 食品 その他



中期経営計画

「STEP 3000」 達成に向けた活動

2012年度は「STEP 3000」達成に向けて策定した5つの基本方針に沿った取り組みを推進しました。



2012年度の総括

「STEP 3000」初年度の2012年度は、欧州債務問題や中国をはじめとする新興国経済の成長鈍化の影響を受けて厳しい経営環境ではありましたが、米国における塩ビ安定剤事業の買収やブラジルでの販売会社設立、マレーシアでの食品合併会社設立など、将来の成長へ向けた投資を戦略的に推進した年でもありました。

2013年度は中期経営計画の2年目として、最終年度の目標達成に向けてこれまでに打った成長戦略を結実させなければならない大事な年です。「目標にこだわって、自分の役割を確実に果たすことを常に意識し、行動する」ことを旗印に各部門とも果敢に挑戦していきます。

項目	海外 Global operations	技術 Technology	価値創造 Creation of value	投資 Investment	人財 Human capital
目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在ある12か国22拠点のそれぞれにおいてCSR基本方針に沿って、事業の強化・拡充を図る ● 伸長著しいアジア市場においてマーケティング機能強化と現地ニーズに合致した製品を開発 ● 新規進出と設備投資 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 需要拡大の見込める地域への進出／戦略的アライアンスの締結 ● 海外研究開発拠点の整備(韓国、中国) ● 地域統括会社の設立検討 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 意思決定の迅速化、マーケティング機能の強化、管理業務の共通化 ● グローバル生産体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ▶ グローバル購買体制の構築 ▶ 適地生産システムの構築 ▶ グローバル生産能力の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業の創出 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特に注力する分野を「ライフサイエンス」「環境・エネルギー」とし、それぞれの分野に特化した材料研究所へ改編して研究人員も強化し、製品開発を進める ● 新製品の開発 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 当社固有の基盤技術・コア技術の組み合わせと融合により、市場競争力の高い製品を開発し、新製品の売上高比率30%(単体)を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様へのソリューション提供を極大化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ マーケティング機能の強化とともに、各部門間の協働体制をより強固にし、お客様価値の最大化を図る ▶ BCPを事業戦略に組み込み、リスクに強いサプライチェーンを構築 ● 事業領域の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 樹脂添加剤から“総合”添加剤へ ▶ 新規の食品関連分野を取り込み、食品事業の質的転換を図る ● CSR活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 人々の豊かな生活の実現に向けて、本業を通じた社会貢献活動を基本としたCSR経営とコーポレートガバナンスを強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3か年合計で約400億円の設備投資を計画 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 海外での設備投資は約60% ● 業容拡大、新規事業創出を目的として、M&A投資枠として約200億円を計画 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大の企業資産である人財の育成・拡充 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 社員の能力強化を図り、グローバルに事業を牽引する人財の育成 ▶ 高度な専門性を持った人財の拡充 ▶ 女性幹部社員の育成・強化 ▶ 外国人社員の採用拡大
実績	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ:樹脂添加剤の製造・販売会社 AM STABILIZERS CORP.を設立、Hammond社から塩化ビニル用安定剤事業を買収 ● ブラジル:現地法人ADEKA BRASIL LTDA.を設立、2013年4月から営業開始 ● マレーシア:食品事業の合併会社 ADEKA FOODS(ASIA) SDN.BHD.を設立、工場建設に着手 	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浦和開発研究所 新研究棟竣工 ● 大麦ベータグルカン は、日本健康・栄養食品協会の機能性評価事業で、血中コレステロールの正常化、食後血糖値の上昇抑制などで高評価を得た <p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 韓国:化学製品の製造・販売会社 ADEKA KOREA CORP.のR&Dセンター拡充 ● 中国:R&Dセンターの設立検討 	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ADEKAグループの管理職を対象としたマーケティング研修の実施 <p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お客様との連携を強化し、各種表彰を受賞 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 中国:化学製品の販売会社 艾迪科(上海)貿易有限公司「優秀サプライヤー表彰」受賞 ▶ 台湾:化学製品の製造・販売会社 台湾艾迪科精密化学股份有限公司「優秀ベンダー金賞」受賞 ▶ 韓国:化学製品の製造・販売会社 ADEKA KOREA CORP. 「ベストパートナー表彰」受賞 	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浦和開発研究所 新研究棟竣工 ● 千葉工場 エステル系添加剤製造設備の建設 <p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ、ブラジル、マレーシアに海外子会社3社設立 ● 韓国:化学製品の製造・販売会社 ADEKA KOREA CORP.に半導体用材料の生産設備を増設 ● 中国:樹脂添加剤の製造・販売会社 艾迪科精细化工(常熟)有限公司に酸化防止剤の製造設備を増設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外研修制度の拡充 ● 中途採用の積極化 ● ジョブローテーションの積極化:グローバルローテーション27名 ● 育児関連制度充実し、制度周知を目的にリーフレット/パンフレットを作成 ● 外国人留学生および海外経験者採用の拡大



5つの基本方針

海外

グローバル化の拡大と ローカライゼーションの加速

経営理念である「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」「世界とともに生きる」のもと、世界市場で競争力のある技術優位な製品群を中心にグローバルな事業展開を加速しています。

海外事業についての基本的な考え方

ADEKAグループは、独自性のある優れた技術で成長分野に注力するとともに、時代の最先端を行く製品と顧客ニーズに合った製品を提供することにより、世界に貢献することを目指しています。

海外事業の歴史～目的とあゆみ

1970年代～1990年代はADEKAグループの海外展開の黎明期と言えます。当初は原料の安定調達を目的に、NIES*および東南アジアの現地パートナーとのジョイントベンチャーによる海外進出を果たしました。

2000年前後は、発展期として独自資本により海外展開を推進しました。ADEKAの事業全般にわたってヨーロッパ、アメリカ、アジアに拠点を構築し、現地での製造・販売体制を整えました。特に、中国には早期進出を果たし、2001年から2004年までの4年間で6社を設立しました。

2005年から現在に至る期間は、新たな成長期として海外事業の多角化を目指しています。インド、ブラジルなどへの進出と生産設備の増強を進めるとともに拠点の統廃合により海外事業の効率的な運営を強化しました。

海外展開を拡大していくうえで欠かせない“現地化”

海外展開は、グローバル化を拡大するとともに現地企業活動のローカライゼーション(現地化)をさらに加速していくことが重要だと考えています。現地社員を要職へ登用することで現地企業の経営力が高まり、価値を創造する企業活動を通じて人々の豊かな生活を実現し、その国の発展に繋がるのだと思います。

昨年、マレーシアに新会社を設立した食品事業も、“油脂加工技術を磨き、アジアの豊かな食生活の実現に貢献する”ことをセグメントビジョンに掲げています。

海外展開のカギを握る“人財”の育成

今後さらに海外展開を加速するうえで、様々な国々の文化や慣習の違いを尊重して受け入れ、活躍の場を世界へ広げられる「人財」が必要とされています。「人財」は、企業の最大・最良の資産であり、今後私たちがさらに海外展開を推進する上での重要なファクターであると考えています。

変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズへの対応が求められるなか、多様性(ダイバーシティ)を推進し、現地社員の活躍の場を広げ、地域の経済や文化の発展に貢献できると考えています。

* 20世紀後半に、急速な経済成長を果たした国・地域の総称



社名：ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO., LTD.
 所在地：営業拠点 バンコク
 製造拠点 ラヨーン県
 マネジメントシステム：ISO9001取得
 資本金：3.5億バーツ
 事業内容：塩化ビニル樹脂(PVC)用の脱重金属系安定剤、ポリエステル系特殊可塑剤の製造・販売

「ADEKAファインケミカルタイランド」におけるローカライゼーションへの挑戦



研究企画部
 浦和研究管理グループリーダー
長濱 勝

 2008年に設立した開発室の初代室長として2012年まで赴任

アジア、ヨーロッパ、北南米などの各地に拠点を構えて、広範な市場活動を行っている樹脂添加剤事業は、ADEKAの中でも最もグローバル展開が進んでおり、各市場や地域の特性に配慮した企業活動を行っています。

その中でも、2005年に設立した現地法人「ADEKAファインケミカルタイランド(AFCT)」は、製造工場内に開発室を設置し、「開発・製造・販売」の一貫体制で、現地のニーズに合った製品・サービスを提供することでお客様から高い評価をいただいています。

「ADEKAらしさ」を守りながら、現地のニーズに応える体制を構築

AFCTはタイをはじめ、インドネシア、マレーシアなど東南アジアのプラスチックメーカー向けに、自動車や家電の部品に使われる塩化ビニル樹脂(PVC)用の添加剤を製造・販売しています。日本ではカドミウムや鉛などを含まない脱重金属系の製品がほとんどですが、これらの国々では、コストパフォーマンスの高い重金属系の低価格製品が主となっています。

こうしたなかで、脱重金属系製品のみを製造するAFCTでは、当初は欧米向け製品を製造するユーザー企業への供給を主に行っていましたが、ローカル向けニーズにも積極的に対応すべく製造工場内に開発室を併設し、技術サービスを伴うきめ細かな製品開発体制を構築することで業績を伸ばしています。

「ADEKAファインケミカルタイランド」におけるローカライゼーションへの挑戦

密接なコミュニケーションを通じて、お客様の信頼を獲得

ローカル市場に受け入れられるには、「価格競争力」が第一。性能については、お客様と円滑なコミュニケーション・チャンネルを持つことでニーズをしっかりと把握することが「鍵」となります。AFCTはさらに、脱重金属系で高品質というADEKAのポリシーを踏襲し、経験豊富なADEKAの技術者が現地の技術スタッフに対して、添加剤の知識やノウハウを伝授することによってローカル仕様の「新製品」を開発する体制を整えるため、2008年に開発室を設立しました。

プラスチック製品の製造には様々なトラブルがつきもので、その解決には添加剤の知識はもちろんのこと、経験を積んだ技術者ならではのノウハウがものを言います。AFCTの技術スタッフは、「何でも話せる」相談相手となることでお客様の信頼を獲得する一方で、密接なコミュニケーションを通じ、よりニーズに適した製品を提供できるようになりました。AFCTの製品は「低価格」で「環境にも優しく」、そのうえ「迅速で、丁寧な技術サービスを受けることができる」と、お客様からご評価をいただくことができました。

“手づくり”の人財育成で、着実なスキルアップを実現

AFCTには現在、約60名の社員（うち日本人社員は4名）が在籍しています。

開発室では2008年の設立時より若干名ずつコンスタントに採用を続けており、現在は品質保証担当の4名と併せて7名が所属し、製品開発や技術サービスの提供にあたっています。新入社員は、特定の専門分野については高度な知識を有している一方で、化学反応や合成に関する基礎知識が不十分であることから、開発室長や先輩社員によるマンツーマン形式での教育が行われています。また、過去の事例研究をテーマにした全員参加の勉強会も定期的に関開く一方で、ADEKAの樹脂添加剤製品の主力工場である三重工場やグローバルテクニカルセンターの浦和開発研究所

で研修プログラムを実施し、スタッフのスキルアップを図っています。

お客様のもとを訪ねて技術的なサポートを行う訪問サービスについても、OJTを兼ねた同行訪問などを通じて人財が育っており、現在はタイ人の技術スタッフも担当エリアで活躍しています。また、製品開発でも、これまでADEKAのラインアップにはなかった新しい製品が生まれるなど、こうした“手づくり”の人財育成の成果が徐々に表れています。

AFCTでは、品質や生産効率の向上に加えて、今後ユーザー企業の生産技術に関するサービスも提供していけるように、製造部に技術課を設置し、新たな人財の育成にあたっています。



AFCTの創立記念式典



AFCTから孤児院への寄付



社員旅行 AFCTでは社員で構成される福利厚生委員会がイベントを企画



工業団地の日系企業が主催する「日本祭り」に協賛

持続的な成長に向けた投資によるビジネスの拡大

ADEKAグループでは、2012~2014年度に総額600億円の投資を計画し、国内外の設備投資やM&Aなどにより、業容および領域の拡大や新規事業の創出を目的とした積極的投資を実行しています。2012年度は市場拡大を視野に入れ、グローバルビジネスの拡充・強化を図りました。



アメリカ

子会社の設立と事業買収でシナジーを生み出す

樹脂添加剤の製造・販売会社AMFINE CHEMICAL CORP.の子会社として、塩化ビニル用安定剤などの製造・販売を行うAM STABILIZERS CORP.を設立し、Hammond社から買収した塩化ビニル用安定剤事業を移管しました。

ADEKAグループとHammond社の持つ技術力・製品・販売ネットワークを融合し、樹脂添加剤事業のさらなる拡大を図ります。



社名: AM STABILIZERS CORP.
所在地: インディアナ州
設立: 2012年5月
業務内容: 塩化ビニル用安定剤など樹脂添加剤の製造・販売



ブラジル

現地法人設立 南米市場開拓の足掛かりに

ブラジルを中心とする南米地域の自動車産業、エレクトロニクス産業をターゲットとし、樹脂添加剤を中心としたADEKAグループ製品の販売拡大を図るため、現地法人ADEKA BRASIL LTDA.を設立しました。

2014年のサッカーワールドカップ開催、2016年のリオデジャネイロオリンピック開催と、今後の拡大・発展が期待されるブラジル市場での拡販と南米地域の市場調査を推進します。



社名: ADEKA BRASIL LTDA.
所在地: サンパウロ市
設立: 2012年7月(2013年4月から営業開始)
業務内容: ADEKAグループ製品の販売支援および市場開拓



マレーシア

東南アジアの食卓に「おいしさ」を届ける

マレーシアのコングロマリット企業として最大手の一角であるIOIグループと合併を組み、マーガリンの製造販売を主体とした加工油脂の製造・販売会社ADEKA FOODS (ASIA) SDN.BHD.を設立しました。

成長が見込まれる東南アジアの食卓に、「安心・安全」と「おいしさ」を届けるため、食品事業のさらなる展開、拡大を加速します。



社名: ADEKA FOODS (ASIA) SDN.BHD.
所在地: ジョホール州
設立: 2012年11月(2014年6月稼働予定)
業務内容: マーガリン、ショートニングなど加工油脂の製造・販売

基盤・コア技術の深耕による イノベーションの創出



取締役専務執行役員 研究開発本部長
森尾 和彦

研究開発によるイノベーションを起こし、社会の発展に貢献することは私たちの重要な使命です。ADEKAグループは、長年蓄積してきた多様な技術や新技術との融合によって価値ある製品を生み出し、安心、安全で調和のとれた社会の発展に貢献していきます。

情報電子分野では、私たちの製品はスマートフォンなどで代表される先端機器の重要な部品に採用され、いまや世界的にもなくてはならない材料として評価されています。エネルギー、ライフイノベーションは世界的な課題です。当社は再生可能なエネルギーに必要な色素増感や有機薄膜などの有機太陽電池材料、風力発電用素材をはじめとし、蓄電用の材料や省エネルギーにつながるユニークな材料技術の開発に力を注いでいます。

ライフサイエンスでは、ベータグルカンなどの天然素材を活用し、「ヘルスケア」、「アンチエイジング」をキーワードに、栄養補助・健康食品、化粧品素材の開発を行ってきました。またメディカル向けに、大腸がん早期発見用造影剤などの診断薬や医療用の新製品開発も進めています。

世界に役立つ技術を開発するため、他企業、大学、公的機関との連携を積極的に進め、また海外の研究開発拠点の充実も重視し、多様な文化が融合した新たな価値の創造を目指していきます。

社会的課題を解決する健康素材の開発



ライフサイエンス材料研究所
開発室長
榎 和文

急激な高齢化の進展は日本のみならずアジア各国をはじめ先進国の課題であり、病気を予防し生涯にわたり健康な体を維持することが人類共通の願いとなっています。当社では、免疫力の維持や生活習慣病の予防効果に優れた健康素材の開発を推進しており、大麦と黒酵母菌から機能性が高いベータグルカンの製品化に成功し(大麦ベータグルカン、発酵ベータグルカン)、大麦ベータグルカンのトクホ取得などを進めています。大麦ベータグルカンは、安全性が高い健康機能成分であり、ウイルスなどへの感染やガンに対する免疫機能を持ち、糖尿病や心臓疾患の予防にも効果があることがヒト試験で明らかになってきました。また、発酵ベータグルカンは、保湿機能に優れていることから、化粧品にも使われはじめています。

当社は、ベータグルカンの機能性が最大限に発揮されるような摂取形態や新しい機能性に関する研究開発、化粧品材料や創傷被覆など医療分野への応用を進めています。



がん細胞だけを見分けて“光る”造影剤「ナノビーコン」の開発



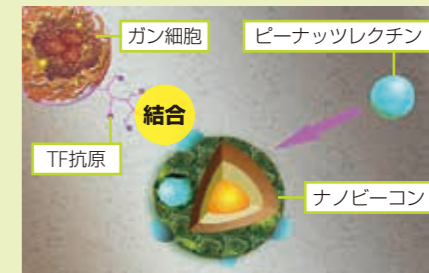
ライフサイエンス材料研究所
研究室長
小池 誠治

健康で活力のある長寿社会と質の高い生活の実現を目指すライフサイエンス分野で、現在取り組んでいる研究開発テーマの一つが、大腸がんの早期検出を可能とする造影剤「ナノビーコン」です。ナノビーコンは、当社が得意とする高分子合成技術を駆使して、高感度で検出可能な蛍光色素をポリマー(高分子有機化合物)に内包し、ポリマー表面が、がん細胞とだけ特異的に結合*するように加工したものです。

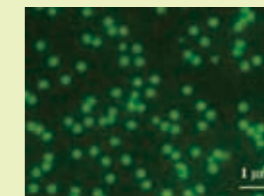
大腸がんはなによりも早期発見が“鍵”となりますが、大腸粘膜(消化管側)上のがん組織に触れるとがん細胞が明るく光り、正常な細胞とのコントラストがつくナノビーコンの投与で、内視鏡検査などによる早期がんの診断精度が高まることが期待されます。

早期の段階でがんが発見できれば、患者さんのQOL(生活の質)向上はもちろんのこと、医療費増加問題への寄与なども期待されることから、今後は有効性の評価など、さらなる検証を重ね、早期の製品化を目指す予定です。

*米国大学との共同研究で、ナノビーコンは患者由来の大腸がん組織に結合し、正常な組織には結合しないことを確認



がん細胞の表面とナノビーコンのビーナッツレクチンが結合、中心部に濃縮された色素分子から強い蛍光を発する



ナノビーコンの電子顕微鏡写真。蛍光している様子

太陽電池の発電効率を向上させる波長変換材料の開発



環境・エネルギー材料研究所
主任研究員
科野 裕克

無尽蔵に降り注ぐ太陽光を利用した太陽光発電は、持続可能なクリーンエネルギーを生み出す発電方式として、“人類の未来”が託されていると言っても過言ではありません。しかしそこには、「発電効率の向上」や「製造コストの低減」という技術的な壁が大きく立ちはだかっているというのが現状です。

こうした中で、発電素子(セル)を封止するためのシートやフィルムに新素材(波長変換材料)を添加*1し、発電効率の低い「紫外線」を「可視光線」に変換することで、低コストで効率を高めることができる「波長変換方式」が注目されています。当社の光機能材料開発技術をベースに、この新素材の開発に取り組んでおり、2012年度において、約80%*2の波長変換(紫外線→可視光線)効率を有し、結晶Si系太陽電池の変換効率を約0.4%*2向上させる有機系蛍光色素の開発に成功し、2013年度よりサンプル出荷を行っております。太陽電池の寿命と同等の耐久性が必要であるなど、まだ課題は残りますが、変換効率のさらなる向上を目指し、“人類の夢”に向けた“挑戦”を続けてまいります。

*1 従来型の紫外線吸収剤の代わりに、波長変換作用のある添加剤を添加 *2 自社評価



紫外線照射中(左) 紫外線照射前(右)

価値創造 お客様との連携強化による 存在感の向上に向けて

ADEKAグループが一丸となって協働し、お客様へのソリューション提供がより可能となるよう努めております。価値ある製品やサービスの提供と新たな価値創造のため、企業力を高めていき、よりよい社会の実現に貢献していきます。

高品質な製品の提供と新たな価値を創出する取り組み

ADEKAグループは、お客様にとって価値のある製品・サービスを継続して提供していくために、新しい技術の開発や製品の品質改善に日々取り組んでいます。

2004年度からは、品質に対する意識をさらに高めるため、毎年12月に国内外のグループ会社が参加する「[4つの安全*]改善事例発表会」を実施しています。品質改善、生産・業務効率の向上に関する事例だけでなく、物流や管理部門も参加することで、お客様や市場ニーズに関する情報を共有し、相互のレベルアップとより付加価値の高い製品・サービスの提供に努めます。



「4つの安全」シンボルマーク



「4つの安全」改善事例発表会(本社)

社外からの表彰 樹脂添加剤のお客様(中国)から 優秀サプライヤー表彰を受賞

艾迪科(上海)貿易有限公司(ADSH)は、2012年12月に、KINGFA社から「優秀サプライヤー表彰」を受賞しました。

中国最大手のコンパウンドメーカーであるKINGFA社は、毎年10社の優れたサプライヤーに表彰を行っており、ADSHはKINGFA社に納入するポリオレフィン用添加剤、難燃剤および塩ビ用安定剤に関するアグレッシブな営業活動と技術サービスが高く表彰され受賞に至りました。

2012年度の主な社外表彰実績

受賞会社	時期	表彰名	主催者	
ADEKAライフクリエイト(株)	東京	2012年11月	防火管理業務協力功労者表彰	尾久消防署
台湾艾迪科精密化学股份有限公司	台湾	2012年12月	優秀ベンダー金賞	台湾凸版国際採光社
ADEKA KOREA CORP.	韓国	2012年12月	全羅北道知事表彰	全羅北道
ADEKA KOREA CORP.	韓国	2013年 3月	ベストパートナー表彰	サムスン電子

* 工場運営の最優先事項として確保するべき重要項目を「労働」「品質」「設備」「環境」の4つに分類して定めたもの

Voice 「4つの安全」改善事例発表会 最優秀賞を受賞して

ADEKAファインフーズ(株)は、日頃から軽微な災害を含んだ「災害ゼロ」と「クレームゼロ」を目標に、「どんな異物も見逃さないこと」を合言葉に改善活動に取り組んでいます。

生産ラインの設備改善に取り組み、細かい作業が多い既設ラインの改善に向けて、チーム一丸となってアイデアを出し合い試行錯誤を繰り返しました。努力を続けた結果、発表会で最優秀賞を受賞できたことは大きな喜びであり、今後もお客様により製品をお届けできるよう、さらなる改善活動に取り組んでいきます。



ADEKAファインフーズ(株)



艾迪科(上海)貿易有限公司

人財 グローバルビジネスを牽引する 次世代リーダーの育成

グローバル人財育成のための取り組みとして、海外関係会社および語学学校で半年間の研修を行う「海外派遣研修制度」を2007年度から導入し、近年は、海外現地法人から本社・研究所・製造拠点への業務研修も拡充しており、活発な人的交流や相互啓発を通じて、世界で通用する次世代リーダーを育成しています。

海外でのビジネスを体感し、 コミュニケーションの重要性を感じました

シンガポール

研修先

「海外派遣研修制度」を利用し、2012年5月から約半年間、シンガポールで語学研修と現地法人でのOJTを行いました。

当社食品事業のターゲット市場である東南アジア各国への訪問、営業活動も経験させていただき、イメージ先行であった海外でのビジネスを体感することができました。また、語学力を含むコミュニケーションスキルの重要性和、日本の常識が海外では通用しないことを強く感じました。今後、グローバル人財となれるよう、常に海外の動向に目を配りながら、自己研鑽と営業活動に励んでいきたいと思ひます。



東日本食品営業部
島川 孝昭



基礎ケミカル営業部
藤田 祐輔

多様な文化を理解することで価値観が 大きく変わりました

中国 上海

研修先

中国上海の語学研修で、生きた中国語の習得に加え、中国の文化・習慣を肌で感じられたことは貴重な経験でした。広大な中国には多様な文化(言語・風習)があり、これら理解することで私の中国に対する見方が大きく変わりました。

地域の文化を理解し、その上で、人との関係を構築することはグローバルでは必要な要素です。今後はこの研修を糧にさらに研鑽し、ADEKAの海外ビジネス拡大の一助となるよう努めていきます。

日本の技術を学び、 現地のプロジェクトに生かします

ADEKA三重工場

研修先

2012年6月3日から一週間、艾迪科精細化工(常熟)有限公司の酸化防止剤製造プロジェクトメンバー8人とともに三重工場で生産工程の研修を受けました。

三重工場技術陣の熱心な指導のもと、粉体物質の取り扱い、製造機器の分解組み立て・構造学習、油水分離界面の確認方法、溶剤蒸留工程の品質制御方法、各設備の日常管理方法など、多くの技術を学び有益な研修となりました。

今回の研修により、酸化防止剤製造工程の全体の流れについては理解しましたが、各種トラブルが発生したときの原因およびその解決方法についても引き続き理解を深める努力を続けていきたいと思ひます。また、三重工場で体験した従業員の皆様の情熱を見習い、今後の業務に役立てていきたいと思ひます。



艾迪科精細化工(常熟)有限公司 製造部
劉 正華

製品の安全性確保と品質向上

「品質保証」と「製品安全」を一体とした「品質安全」の考えのもと、製品の安全性確保と品質向上に努めています。

責任者より

ADEKAグループは、安全で高品質な製品・サービスを提供するために、品質保証と製品安全を一体として考え、「品質安全」という独自のフレーズを掲げた取り組みを展開しています。

2012年度は、多様化する化学物質規制の対応と国際的な管理の強化および食生活の多様化が進むなかで食の安全を確保するべく、次世代システムの検討を行いました。

今後も、私たちADEKAグループは、中長期ビジョンである「売上高3,000億円のグッドカンパニー」の実現に向け、基盤である品質安全体制を強化していきます。

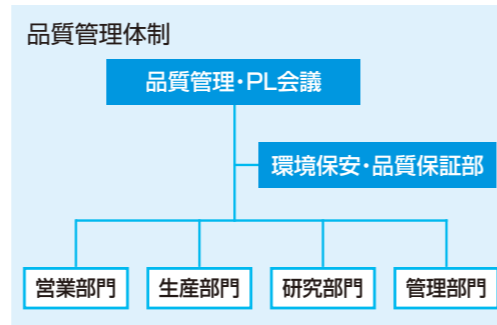
環境保安・品質保証部長
竹内 淳哉



品質管理方針

お客様に安心と信頼をお届けするため、品質管理に関わる仕組みの有用性を評価して、継続的改善に努めます。

1. 工程内不良およびクレームの「真の原因」を追究し、有効な対策実施と横展開の推進を図ります。
2. 化学物質のリスク管理を進め、サプライチェーン管理のしくみを構築します。
3. 食品、化学品ともに生物多様性に配慮した起源原料管理を推進します。



目標と実績

取り組み事項	2012年度の目標	2012年度の実績
PL ^{*1} 対応	化学製品のGHS ^{*2} 対応	◇タイ、シンガポールへの輸出製品について両国の法規制に則ったGHS化対応
	食品トレーサビリティ管理システムの活用・改善	◇新規に採用した原料情報を管理システムに登録
化学物質の管理	国内外の関連法への対応	◇国内法改正(化審法 ^{*3} 、安衛法 ^{*4} 、毒劇法 ^{*5})への対応 ◇韓国・中国・米国などの化審法制度への対応 ◇台湾の化審法制度法案化への対応
	REACH ^{*6} ・CLP ^{*7} への対応	◇REACH対応の継続 ◇CLPに則った化学物質の分類・表示対応の継続
食品製品の安心・安全の推進	原料から製品までの製品プロセス全体にわたるお客様への情報提供	◇トランス脂肪酸、コレステロール含有量についての情報提供を開始 ◇2013年度に制定および改正が予定されている国内法の情報収集

※1 "Product Liability" 製造物責任の略 ※2 化学物質の分類基準を世界的に統一し、その表示を認知させるシステム ※3 "化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律"の略 ※4 "労働安全衛生法"の略 ※5 "毒物及び劇物取締法"の略 ※6 EUが施行する化学物質の総合的な管理制度の総称 ※7 GHSに則った物質の分類、ラベル表示、及び包装に関する欧州議会の規則

化学物質の適正な管理

ADEKAグループは、製造プロセスおよび製品の安全性確保に努め、環境保全、保安防災、労働安全衛生、製品安全の面から化学物質の適正な管理に取り組んでいます。

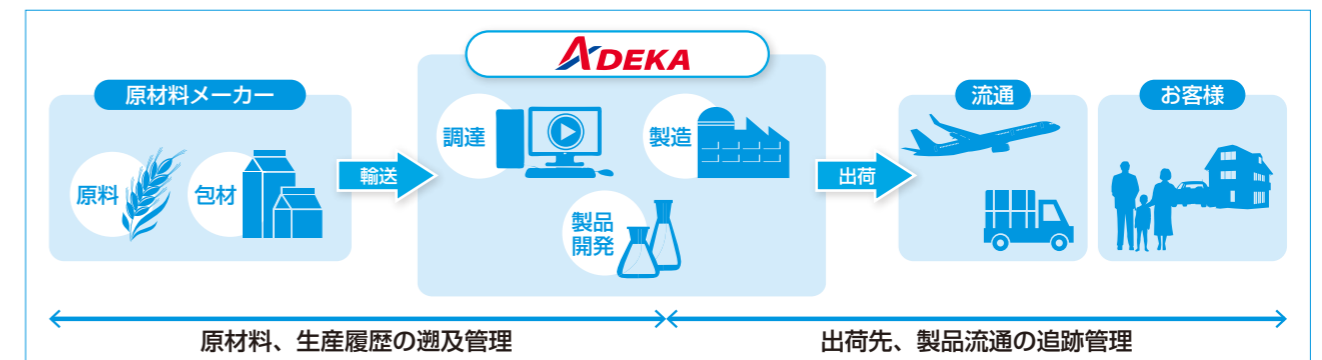


食品製品の安心・安全の推進

ADEKAグループの食品事業は、「おいしさと安心のベストパートナー」のブランドスローガンのもと、食品衛生はもとより、環境にも配慮した安心・安全でおいしい食品素材の提供に努めています。

■食品のトレーサビリティ管理

原材料の種類・調達先や、製造工程、流通工程の情報を一元管理し、原材料、製造、流通に至る履歴を商品のロット番号から追跡できるシステムを活用しています。製品履歴だけでなく、生産・在庫管理システムとリンクすることで、トレーサビリティ管理を推進しています。



■食品原料における残留農薬の検査

食品の原材料は、2006年に施行された「食品に残留する農薬等のポジティブリスト制度」^{*11}に基づいて独自の管理基準を定め、定期的なリスク評価を図っています。また、食品原料の取り扱いに関する社内規準に基づいて重要な原材料については、外部機関による検査を導入して、管理体制を整えています。

2013年度の目標

取り組み事項	2013年度の目標
PL対応	◇輸出製品について各国の法規制に則ったGHS化に適時対応
	◇食品トレーサビリティ管理システムのブラッシュアップと効率化推進
化学物質の管理	◇国内外の関連法への対応
	◇REACH対応の継続
食品製品の安心・安全の推進	◇お客様への情報提供の継続 ◇国内の関連法への対応

※8 化学物質安全性データシート ※9 製品の生産・販売・輸送段階における各国の法規制とGHSに対応するため、国内外の法規制情報、化学物質情報などを一元管理するシステム ※10 危険物輸送において、関係者がとるべき処置を記した緊急連絡用カード ※11 基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通を原則禁止する制度

環境保全への取り組み

環境基本方針を制定し、積極的な環境保全活動に取り組んでいます。

責任者より

健康で豊かな社会の実現に貢献するため、ADEKAグループでは環境保全活動に取り組んでいます。法改正に伴う管理方法や体制の改善、環境・安全対策本部による監査や環境に関する各種委員会によって、各事業所の活動を評価し、支援しています。今日では、「生物多様性」が提唱され、地域、自治体、企業などの活動が活発化してきました。私たちADEKAグループは、「生物多様性」に配慮した取り組みを推進し、社会に対する企業の役割を果たしていきます。

執行役員 環境・安全対策本部長
古川 豊

環境基本方針

1. 地球環境汚染の防止および環境の保全に対する全社の取り組み

私たち一人ひとりが、環境保全に強い意識を持ち、事業活動のすべてにおいて、環境との調和・融合を図り、公明正大な、かつ持続可能な活動を行うために、社内各部署はもとより、広くグループ会社と協力し、総合的・有機的な取り組みを展開します。

2. 企業としての責任

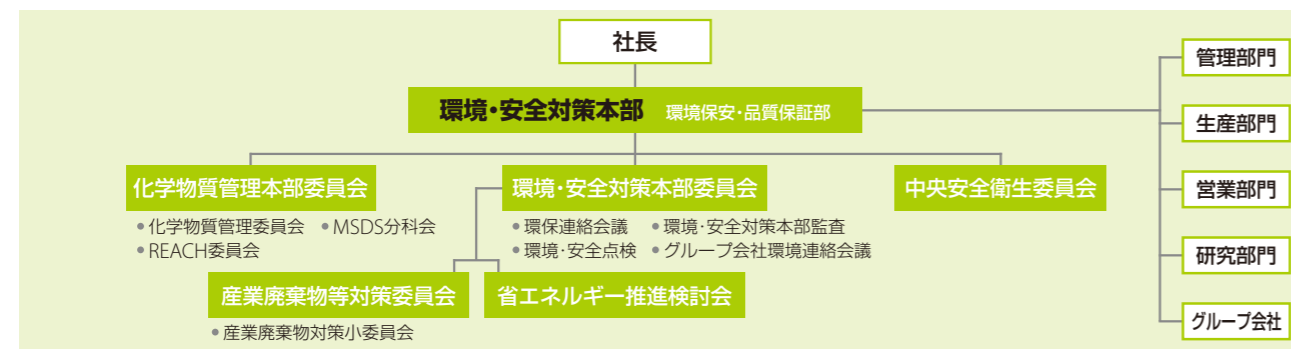
研究、開発、購買、生産、販売、物流、廃棄に至るすべてのライフサイクルにおいて、環境汚染防止のため、省資源、省エネルギー、産業廃棄物の抑制・再利用・再資源化等による環境負荷低減に努めるとともに、生物多様性に配慮した環境配慮型商品および環境保全技術の開発・提供を推進し、さらには、環境保全に適合した製品を積極的に使用し、持続的社会的実現に尽力し、貢献します。

3. 社会への貢献

企業が社会の一員であることを強く認識し、環境に対する法令および政策を遵守し、協力するとともに環境情報を公開し、社会や地域における環境保全活動への支援・協力をを行います。

環境管理推進体制

執行役員を本部長とする環境・安全対策本部が定めた方針のもと、各事業所が定めた実施計画に基づき、PDCAサイクルを通じて環境管理活動の継続的な改善を図っています。



目標と実績

自己評価 ◎:計画を上回る ○:ほぼ計画通り △:計画を下回る

2012年度の目標	
省エネルギーの推進	生産部門において、エネルギー原単位を前年度対比1%以上削減
	生産部門において、CO ₂ 排出量を前年度対比1%以上削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物発生量を前年度対比1%以上削減
	2020年度までに外部委託量の再資源化率を80%に向上 ゼロエミッション*1の継続および完全ゼロエミッション*2の達成
グリーン購入の推進	2020年度までに文具類および文具類以外のグリーン購入率を80%以上に向上
マネジメントシステムの構築	顧客ニーズを把握し、マネジメントシステムの継続的改善を推進 BCMS(事業継続マネジメントシステム)の横展開を検討

2012年度の実績		自己評価
省エネルギーの推進	エネルギー原単位0.1856kl/t(前年度対比4.5%削減)	○
	CO ₂ 排出量150,607t(前年度対比4.2%増加)	△ ^{*3}
産業廃棄物の削減	産業廃棄物発生量38,626t(前年度対比7.7%増加)	△ ^{*3}
	再資源化率48%(外部委託量10,867tのうち再資源化量5,211t) 完全ゼロエミッション達成 最終埋立処分量25.8t(産業廃棄物発生量の0.07%)	◎
グリーン購入の推進	文具類:69%(1,526品目中1,054品目) 文具類以外:54%(739品目中400品目)	△
マネジメントシステムの構築	各マネジメントシステムの継続的改善を推進 BCMSは、BS25999-2:2007からISO22301:2012へ移行するため、 マネジメントシステムの見直しを実施	○

次年度以降の目標	
省エネルギーの推進	生産部門において、エネルギー原単位を前年度対比1%以上削減
	生産部門において、CO ₂ 排出量を前年度対比1%以上削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物発生量を前年度対比1%以上削減
	2020年度までに外部委託量の再資源化率100%を達成 2020年度までに最終埋立処分量ゼロを達成
グリーン購入の推進	2020年度までに文具類および文具類以外のグリーン購入率を80%以上に向上
マネジメントシステムの構築	顧客ニーズを把握し、マネジメントシステムの継続的改善を推進 本社および相馬工場でISO22301:2012認証取得 他工場におけるBCM・BCPの継続的改善

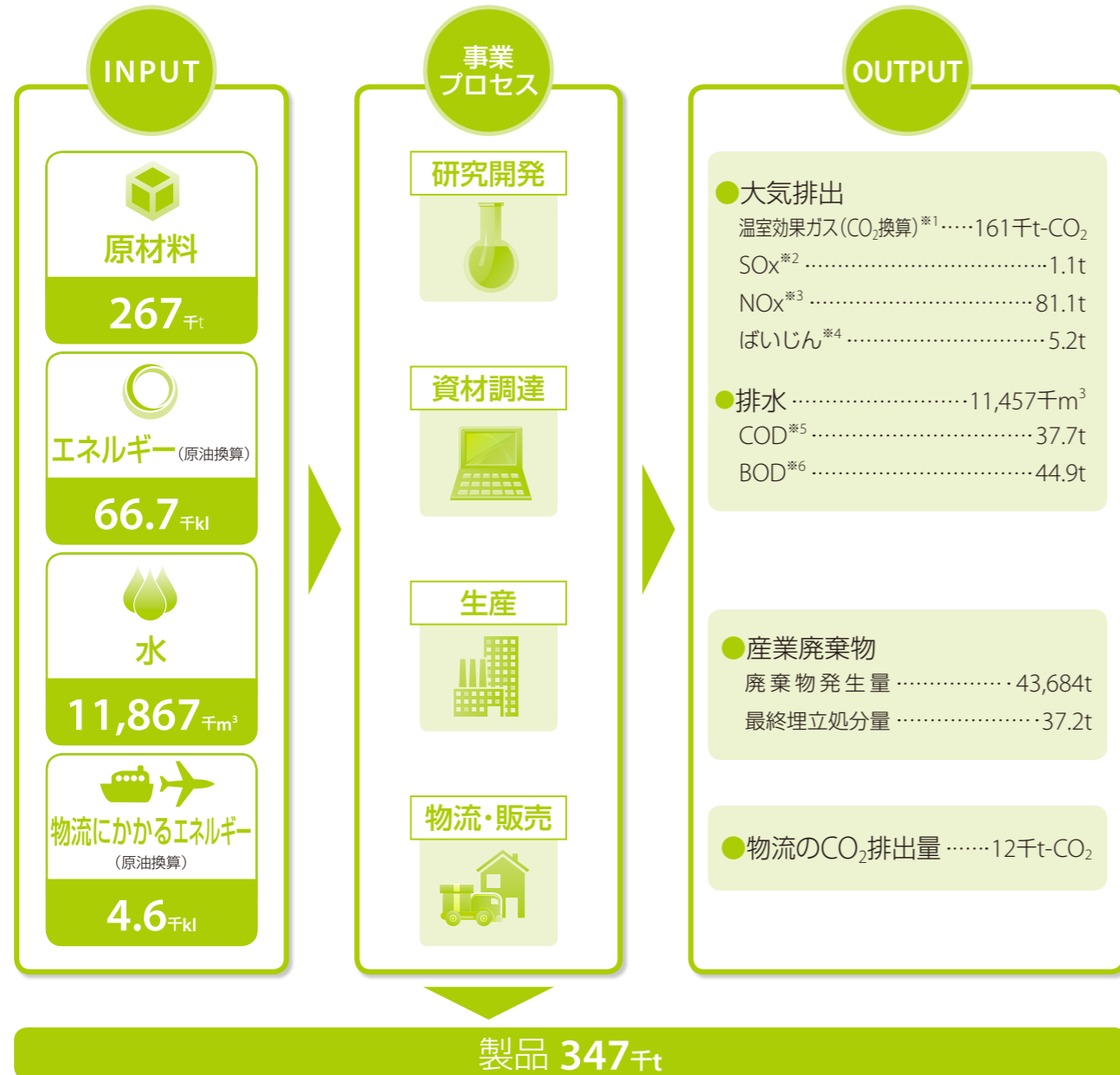
ウェブサイトにおいて、本報告書では掲載できなかった詳細なデータを公開しています(2013年9月から掲載)。http://www.adeka.co.jp/csr/index.html

*1 当社は最終埋立処分量が産業廃棄物発生量の0.5%未満なることをゼロエミッションと定義しています
*2 当社は最終埋立処分量が産業廃棄物発生量の0.1%未満なることを完全ゼロエミッションと定義しています
*3 2011年度は、東日本大震災による生産設備の稼働停止の影響を受けましたが、2012年度は通常生産に戻ったことから、CO₂排出量や産業廃棄物の発生量が増加しました

環境保全への取り組み

マテリアルフロー

ADEKAグループは生産工程で発生する廃棄物の排出量削減と、再資源化に取り組んでいます。



グリーン調達

環境調和型企業を目指す取り組みの一環として「グリーン調達基準」を策定し、事業所および国内グループ会社では基本方針に基づいたグリーン調達・グリーン購入に取り組んでいます。

コストと環境性能のバランスを図りながら、購入の必要性を考慮した上で、グリーン購入ネットワーク(GNP)のガイドラインを参考に、可能な限り環境負荷の小さい製品を優先的に購入しています。

グリーン調達の基本方針

資源採取から廃棄までのすべてのライフサイクルにおいて、以下を考慮して調達する。

1. 環境および人の健康に影響を与える有害物質の使用や排出が抑制されていること。
2. 使用時の資源やエネルギーの消費が少ないこと。
3. 原料に、再生材料または持続的に利用できる天然資源を用いていること。
4. 長期使用、再使用、リサイクルが可能であること。
5. 廃棄されるときに適切な処理、処分が容易であること。

※1 エネルギー起源、非エネルギー起源、プロセス起源などトータル排出量 ※2 硫黄を含む燃料の使用時に発生する硫酸酸化物 ※3 工場のボイラー、焼却炉での燃焼時に発生する窒素酸化物 ※4 燃料などの燃焼時に発生する微粒子状物質 ※5 有機物を酸化する時に消費される酸素の量 ※6 河川水や工場排水中の汚染物質が微生物によって無機化・ガス化されるときに必要とされる酸素量

2012年度の主な環境保全活動

生物多様性方針策定

ADEKAグループは、事業活動が地球環境や生物多様性に与える影響を把握し、その影響をできる限り軽減することを目的として、ADEKAグループ生物多様性方針を策定しました。

従来から取り組んできた地球温暖化防止策や化学物質管理などの環境保全活動に加え、工場排水の浄化や事業所内の緑化活動による生物多様性保全にも貢献していきます。

研究所における省エネの取り組み

2012年6月に竣工した浦和開発研究所は、太陽光発電システムの設置や、Low-eガラス*の採用による環境負荷の低減を図り、さいたま市建築物環境配慮制度「CASBEE さいたま」においてAランクを取得しています。

天然ガス燃料のボイラー導入によるCO₂削減

鹿島工場西製造所では、重油を燃料としたボイラーを撤去し、天然ガスを燃料とする高効率省エネ型のガスボイラーを導入しました。エネルギー効率が向上して大きな省エネ効果を得るとともに、CO₂の排出量も大幅に減らすことができました(従来比28%削減)。

食品廃棄物のリサイクル

事業活動で発生した食品廃棄物は、焼却処理の他、再生油脂化などのリサイクル処理を行っています。

2012年度は、食品廃棄物のリサイクルをさらに推進するため、食品研究所で発生する廃棄物の一部を、メタン発酵処理に切り替えました。また、食品リサイクル法に100%対応している明石工場では、近隣の関連倉庫で発生する食品廃棄物を受け入れ、リサイクルする仕組みを構築しました。この結果、約12tのリサイクルを実現しました。

ADEKAグループ生物多様性方針

1. 天然由来の原材料調達に際して、生物多様性に配慮します。
2. 事業所敷地内での生物多様性の保全に配慮した活動を推進します。
3. 生物多様性に配慮した製品の開発に努めます。
4. 地域社会と連携した活動に取り組みます。



浦和開発研究所 新研究棟

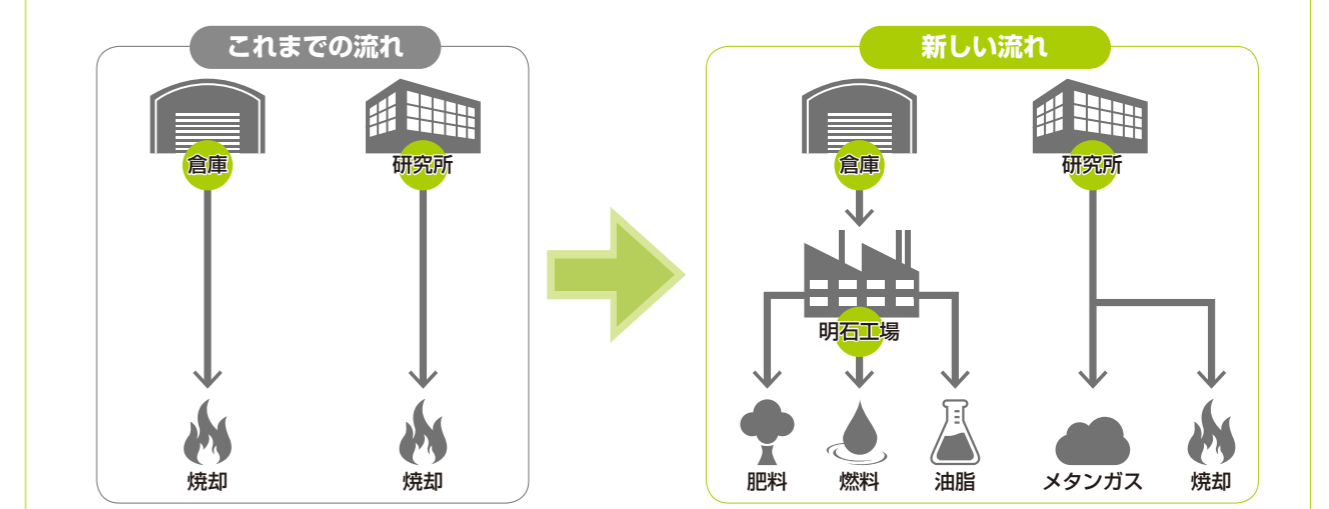


高効率省エネ型のガスボイラー設備(鹿島工場西製造所)



廃棄物をリサイクルし、炭化製品として再利用(明石工場)

食品廃棄物のリサイクルフロー



* 断熱性、遮熱性に優れた省エネ窓ガラス

働きやすい職場づくり

従業員が成長し続けられる、安全で、働きがいのある職場環境づくりに努めています。

責任者より

ADEKAグループは、4つの人事理念に基づき、社員一人ひとりの能力の開発・発揮に主眼を置き、能力の発展段階と発揮した成果に応じた公正な処遇と、働きやすい企業風土の醸成に努めています。

2012年度は「STEP 3000」に掲げる5つの基本方針のひとつ「人材」において「グローバル人材、戦略立案人材の拡充と成長」をキーワードにした施策を推進しました。また、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティの促進にも継続して取り組んできました。

今後も各地域に対応した多様性・人格・個性を尊重し、売上高3,000億円のグッドカンパニーに相応しい人材づくりと、安心して働ける職場づくりを推進します。

人事部長
安田 晋

人事理念

- ▶ 従業員の人間性と個性を尊重します。
- ▶ 社会に貢献する人材を育成します。
- ▶ 従業員の自己実現を支援します。
- ▶ アグレッシブな企業人を育成します。

人材育成理念

ADEKAでは、社員は企業にとっての重要な経営資源であるとの認識のもと、「人材」を「人材」と考え、一人ひとりの意欲と向上心を尊重し、次代を担う人材の育成に取り組んでいます。

基本理念1 信頼される人づくり
“信頼”は、ADEKAグループが古くから尊重し、守り続けている重要な価値である。その“信頼”を独自不変の企業文化に高めるべく、製品やサービスを生み出す従業員一人ひとりが「信頼される人」となることを目指す。

基本理念2 改革をリードする人づくり
時代の潮流を先読みし、経営計画を掘り下げて事業推進を主導できるリーダーシップを備えた人材の育成を目指す。

目標と実績

項目	目標	実績
次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画 (2010年4月1日～2013年3月31日)	育児休業の取得実績向上 (男性3人以上、女性の取得率80%以上)	◇育児関連の制度全般をまとめたリーフレットを作成し、全従業員へ配布 ◇制度の周知に努め、計画期間中の男性取得人数:4名、女性取得率100%達成
	ワーク・ライフ・バランスの促進に向けた諸制度の充実	◇年次有給休暇の付与日数増加 ◇制度の充実に努め、有給休暇取得率68.1%達成(前3か年取得率は61.8%)
	所定外労働時間削減に向けた取り組み	◇計画に沿って、週に1回の定時退社デーを設定 ◇社内アナウンスや労使による社内巡回を実施し、定時退社デーを浸透
	健全な精神育成に向けて、会社周辺清掃ボランティア活動の継続的な実施	◇計画に沿って、会社周辺の清掃ボランティア活動を毎月1回実施

ダイバーシティの推進

すべての社員がいきいきと活躍できるよう、個性を生かす組織づくりに取り組んでいます。

■人権の尊重

「ADEKAグループ行動憲章」の中で、基本的人権の尊重について明記しています。また、就業規則において個人の多様性や人格、個性を尊重し、性別・国籍・年齢などを理由とした差別や暴力行為、セクシュアル・ハラスメントなど人格を無視するような行為を禁止することを定めています。

ADEKAでは、職場のモラルハラスメントを防止し、社員への徹底を図るため、モラルハラスメント防止教育を階層別研修や事業会社別の研修で積極的に導入し、2012年度は22名が受講しました。



階層別研修

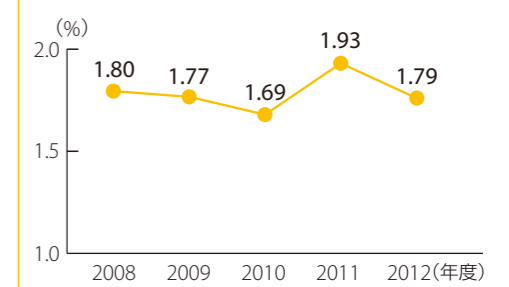
■多様な人材の雇用・登用

ADEKAグループは、障がい者の雇用や高齢者の再雇用を積極的に取り組んでいます。

個々の適性に応じた職域拡大や施設改善など、誰もが働きやすい職場環境の整備を進め、2012年6月時点で障がい者雇用率は1.79%でした。

また、豊富な経験・知識を生かして定年退職後も活躍してもらうため「継続雇用制度」を導入し、2012年度は希望者全員(14名)を再雇用しました。

障がい者雇用率の推移(当社実績値)



ワーク・ライフ・バランスの推進

社員一人ひとりが個々の能力を十分発揮できるよう、ワーク・ライフ・バランスを重視し、柔軟で多様な勤務を可能とする制度を取り入れています。

■労働時間の適正化

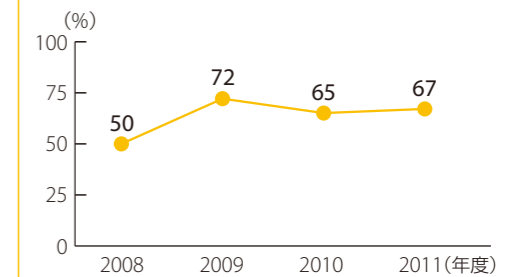
社員が健康でいきいきと働ける風土づくりの一環として、定時退社デーの設定や、長時間労働対策委員会の設置による労働時間の適正化を図り、労使が協力して長時間労働の削減に取り組んでいます。

■仕事と育児・介護の両立を支援

育児休業制度や短時間・時差勤務制度などを導入し、仕事と家庭の両立を図る社員を支援しています。2012年度は、育児・介護関連制度の利用率向上に向けて、諸制度に関するリーフレットを作成し、全従業員に配布しました。

2012年度は、13名(うち男性は2名)が育児休業制度を活用しました。

年休取得率推移(当社実績値)



※集計事業年度:7月1日～翌6月30日



社員の子育てを支援している企業に付与される「くるみんマーク」

2013年度の目標

取り組み事項	2013年度の目標
育児・介護関連制度の拡充	◇出生休暇の増日 ◇育児・介護を目的とした短時間勤務制度の拡充

働きやすい職場づくり

人財育成

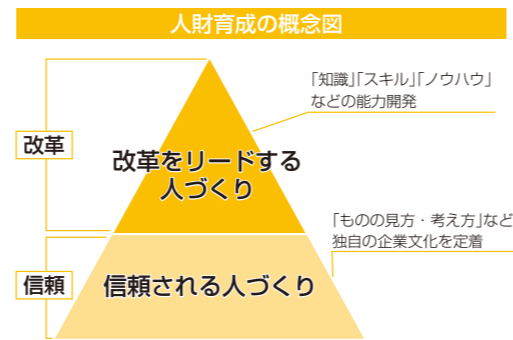
「信頼」と「改革」を人財育成のキーワードと定め、2007年から専門部署を新設して人財の育成を進めています。

グローバルな人財育成

グローバルに事業を牽引する人財の育成がADEKAグループの発展につながると考え、語学学習のサポートや海外派遣研修などの制度を設け、人財の育成に取り組んでいます。

国内では、各事業所に外国人講師を招いた英語・中国語の語学教室開講や、社外語学スクールへの通学サポートを実施し、多くの従業員が制度を活用してスキルアップに取り組んでいます。

一方、海外で語学の習得と実務を経験する制度として、若手従業員を米国、中国、シンガポールなどへ派遣する“海外派遣研修制度”を設けています。参加者は、現地語学学校への通学、海外関係会社でのトレーニーを通じて、現地のビジネス環境・慣習を習得し、専門性を生かす語学力および異文化に溶け込めるコミュニケーション能力を身に付けます。



従業員のキャリア開発

業務を通じて能力を発揮し、付加価値の高い製品・サービスを社会に提供し続けられる人財を育成していくため、従業員の主体的な能力・スキル開発のサポートに取り組んでいます。

階層別研修、選抜型研修、職種分野別の専門研修の他、e-ラーニング、通信教育、資格取得の支援、選択型研修(ADEKAカフェテリア研修)など、各種自己啓発支援を行っています。

また、意欲ある中堅社員が、外部機関でマーケティング、経営戦略、論理的思考を中心とした社会人向けの研修カリキュラムを受講する、ビジネススクール通学制度を導入しています。



社内語学教室

良好な労使関係の構築

企業の発展と従業員の生活の安定・向上を目指し、安定した労使関係の構築に努めています。

労使の相互理解と信頼関係づくり

ADEKAでは、管理職を除く全正社員が労働組合に加入するユニオンショップ制を採用し、労使による対話を重視した関係づくりに取り組んでいます。

労働条件はもとより、雇用の安定や安全衛生、さらには生産・販売活動といった、様々な経営課題などについて、労働組合と経営幹部が労使協議会や各種検討委員会などで意見交換を重ね、諸課題への解決を図るとともに、相互の理解と信頼に基づく健全で良好な労使関係の維持・強化に努めています。

TOPICS

労使による「安全点検交流会」の実施

よりよい職場環境の構築に向けて、各事業所では毎年労使による「安全点検交流会」を実施しています。

2012年度は本社・尾久中央開発研究所、三重工場で開催し、設備点検や衛生面の安全審査、潜在的なリスクへの対策などを点検しました。

安全点検交流会(三重工場)

労働安全

社員一人ひとりの健康に配慮し、安心して働くことができる安全な職場環境の構築に努めています。

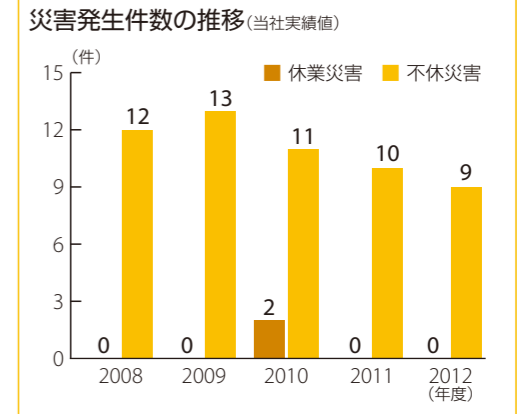
目標と実績

項目	2012年度の目標	2012年度の実績
災害・事故の撲滅	労働災害の発生ゼロ	◇休業災害0件、不労災害9件、通勤途上災害5件
	生産設備事故の発生ゼロ	◇生産設備事故2件

労働安全

ADEKAグループでは、国内全工場で認証取得した労働安全衛生マネジメントシステム「OHSAS 18001」を運用し、労働災害防止活動を推進しています。

2012年度は、2011年度に引き続き休業災害はゼロでしたが、不労災害が9件発生しました。これをゼロにすべくヒヤリハット活動、リスクアセスメントなど労働災害の未然防止対策を進めていくとともに、「品質安全」の向上に取り組み、世代間の技能の継承を推進していきます。



安全・衛生教育

生産工場では、新任現場監督者や安全管理者などを対象に、労働安全衛生法に基づいた労働者の指導や監督方法に関する教育を実施し、労働安全衛生の意識向上を図っています。



新任現場監督者教育

従業員の健康維持・増進

ADEKAグループは、全ての役員・従業員を対象に、毎年2回定期健康診断を行い、検査の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医や看護師による個別のフォローを実施しています。

また、診療所、健康保険組合、労働組合と連携・協力し、40歳以上の従業員およびその扶養家族を対象とした、特定健康診断と特定保健指導を行っており、着実な成果を挙げています。

各事業所においては、メンタルヘルスに関する講習会や研修会を定期的実施して、従業員一人ひとりの心身の健康管理・増進にも積極的に取り組んでいます。

2013年度の目標

取り組み事項	2013年度の目標
災害・事故の撲滅	◇リスクアセスメント実施による危険源の撲滅 ◇災害発生件数の多い若年者層への教育・訓練の充実

ステークホルダーとのコミュニケーション

ADEKAグループは、「社会から必要とされる企業」を目指して、ステークホルダーの皆様との積極的な対話を図っています。

株主・投資家とのコミュニケーション

情報を適時・適切にかつ公平に開示し、企業価値の最大化に取り組んでいます。

利益配分に関する方針

ADEKAは、経営環境、業績、財務状況などを総合的に勘案して、適正な利益配分と内部留保資金を決定することを基本方針としています。

内部留保資金については、経営基盤の強化、中長期的視野に立ち、新たな成長に繋がる成長事業領域への投資などを優先的に活用していきます。2012年度の1株当たりの年間配当金は22円としました。

機関投資家・アナリスト向けに決算説明会・個別ミーティングを実施

機関投資家・アナリストを対象とする中期経営計画説明会、生産拠点や研究所の見学会開催、個別ミーティングの実施など、幅広い活動を行っています。

2012年度は、半期ごとの決算説明会や「2012-2014年度中期経営計画」の説明会に加え、118回の個別ミーティングを実施しました。コミュニケーションの機会を増やし、最新の財務状況や経営方針を適切に伝え、企業価値の向上を目指します。



証券アナリスト・マスコミ向け決算説明会

取引先とのコミュニケーション

お取引先との公平で公正な関係を維持・構築します。

CSRに配慮した調達活動

ADEKAは2002年に「購買管理基準」を策定し、「安定」「安全」「コンプライアンス」を重視した購買活動を進めています。2012年度は、主要サプライヤー様を対象にしたアンケート調査を実施しました。

関係会社・協力会社との安全活動

ADEKAグループでは、関連会社・協力会社に対する品質向上の取り組み支援の一環として、各事業所で勉強会の開催や、自主監査を実施しています。

勉強会では、改善事例の紹介や担当者との意見交換を行い、知識・ノウハウを共有して安全・品質への意識向上を図っています。



物流安全の教育(明石工場)

地域社会とのコミュニケーション

地域の方々と良好な関係を保ちながら、地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

次世代の教育支援

子どもたちが健全に成長することを願って、教育支援活動を行っています。



小中学生の柔道・剣道大会主催(本社)



地元中学生の会社見学(尾久中央開発研究所)

地域の皆様との対話

グラウンドなどの施設開放、納涼祭へのご招待など、地域交流を深めています。



地域の産業祭・商工祭への出展(三重工場)



レスポンシブル・ケア千葉地区地域対話集会(千葉工場)

社会福祉活動、被災地支援

献血、募金、イベント収益金の寄付や障がい者の自立支援など社会貢献活動を積極的に行っています。



社会福祉イベントへの寄付(鹿島工場)



児童養護施設でのボランティア活動(富士工場)



被災地への寄付(相馬工場)

海外拠点での地域貢献

アメリカ、ヨーロッパ、アジアなどにあるADEKAグループの各拠点では、それぞれの地域の特性に配慮した環境美化、福祉・教育支援、地域団体・学校への寄付などの活動を行っています。



高校生を対象に科学部門の優秀表彰に協賛(アメリカ)



政府と共同で実施した環境保護キャンペーン(韓国)



地元大学のインターンシップを受け入れ(台湾)



工業地区の周年行事に参加(中国)

CSRマネジメント

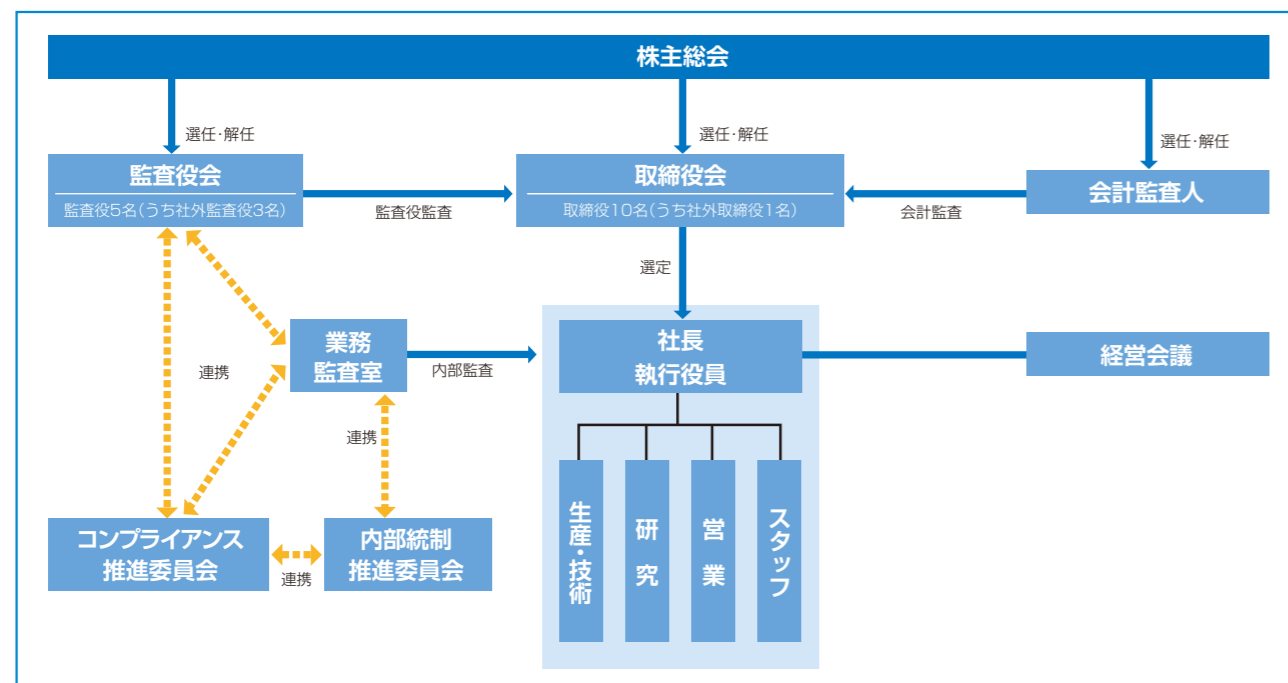
事業を継続的に営み、お客様や社会から信頼される企業であり続けるため、CSRマネジメント体制を整備しています。

コーポレート・ガバナンス

ADEKAグループは、企業価値を向上させ、経営理念の実現を目指していくために、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であると認識しています。

社外監査役を含む取締役会の合議制による意思決定と監査役制度を基本に、執行役員制度の導入、業務監査室の設置による監督と執行の分離体制を整え、経営体制の強化に取り組んでいます。

また、内部統制推進専門委員会、独立委員会を設置し、コーポレート・ガバナンスの整備を図っています。



リスク・マネジメント

ADEKAグループでは、「危機管理委員会」を設置して、経営に影響を及ぼすリスクの把握と対策、管理体制の強化に努め、リスクの未然防止活動に取り組んでいます。同委員会では、平常時におけるリスクの予防、抑制と、重大な危機発生時の緊急対応、拡大防止、早期復旧を目的とした「危機管理マニュアル」を定め、全社横断的にリスク予防体制を整えています。

災害対策

2009年に事業継続計画(BCP)を策定し、事故や災害などの緊急事態に直面しても事業活動を中断させない、あるいは中断したとしても迅速に再開できる体制を整備しています。

2012年度は大規模地震対策の一環として、帰宅困難者、地域住民への対応に関する基本方針の検討や、非常用備蓄品の強化、大災害防災規程の見直しを行いました。

また、国内全拠点で地震および津波を想定した避難訓練や、安否確認システムを活用した通報訓練を実施しました。今後も定期的に訓練を繰り返し、顕在化した課題の解決に取り組めます。



大地震を想定した避難訓練

BCMSの強化

本社と相馬工場で取得したBS25999-2の更新審査が2012年11月に行われ、不適合事項はゼロで認証を継続しました。

今後は、ISO22301:2012の移行に向けてさらに取り組みを充実させていきます。



BCMS監査(相馬工場)

コンプライアンス

ADEKAグループの全従業員が、経営理念や企業倫理、法令などに基づいて正しく行動できるよう2002年度に「ADEKAグループ行動憲章」を制定し、英語・中国語に翻訳して海外関係会社でも適用しています。この行動憲章に基づき、ADEKAグループのコンプライアンス体制の強化充実を図っています。

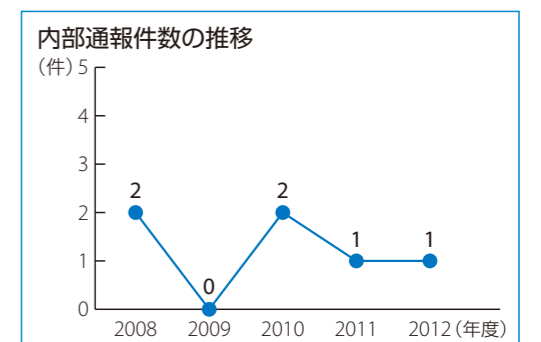
2012年度は、国内事業所でコンプライアンス研修を行い、計294名が参加しました。

ADEKAグループ行動憲章	
1. 法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動	5. 適切かつ公正な情報開示
2. 安全で高品質な商品・サービスの提供	6. 働きやすい職場環境
3. 環境の保全	7. 反社会勢力の排除
4. 社会からの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動	8. 健全で持続的な発展と社会への還元

内部通報制度

コンプライアンスに違反する行為を速やかに発見し解決することを目的として、2003年4月に内部通報制度を導入し、運用しています。

2012年度はグループ全体で1件の通報がありました。通報案件に対しては、プライバシー保護に配慮した調査を実施して、問題の改善や再発防止に努めています。



TOPICS

台湾で事業継続マネジメントシステムの国際規格認証を取得

化学製品の製造販売拠点として2004年に稼働を開始した台湾艾迪科精密化学股份有限公司では、品質、環境、労働安全衛生、危機管理などのマネジメントシステム構築に積極的に取り組んでいます。

2013年3月には事業継続マネジメントシステムの国際規格ISO22301:2012*をグループ会社でいち早く取得しました。



台湾艾迪科精密化学股份有限公司

* 英国規格(BS25999-2:2007)を引き継ぎ、2012年5月に発行された国際規格

「ADEKAグループのCSRレポート2013」を読んで

神戸大学大学院経営学研究科教授 國部 克彦氏

大阪市立大学大学院経営学研究科修了。博士(経営学)
大阪市立大学助教授、神戸大学助教授を経て2001年より現職。2003年研究成果活用企業「環境管理会計研究所」創設。ISO/TC207/WG8議長。経済産業省および環境省関係の各種委員会の委員長・委員を多数歴任する。著書に「マテリアルフローコスト会計」(日本経済新聞出版社)、「環境経営意思決定を支援する会計システム」(中央経済社)などがある



中期経営計画に組み込まれたCSR

ADEKAグループは2016年度に迎える創立100周年までの中長期ビジョンとして「売上高3,000億円のグッドカンパニーを目指す」と宣言されています。その実現のための中期経営計画「STEP 3000」は2012年からスタートし、本報告書で第1年度目の進捗状況を報告されています。市況による影響はありますが、「売上高3,000億円規模の企業に相応しいグッドカンパニー」を定義され、ADEKAグループの存在価値を高めることを明示されていることについて高く評価いたします。具体的には5つの方針「海外・技術・価値創造・投資・人材」を掲げ、財務的な課題と並べCSR的な観点からの課題も公表されています。CSR経営を標榜する企業として、経営計画の中にCSRが組み込まれているのは当然といえますが、経営計画の中に具体的に書かれていることは高く評価できます。ADEKAグループが、真摯にCSR課題と向き合っていることが分かります。

あとは5つの方針について、マテリアリティ(重要性)の観点からKPI(主要な指標)を決定し、それを開示することで、ステークホルダーに進捗状況を具体的な数値で理解してもらうことが必要ではないかと思えます。ステークホルダーとのコミュニケーションについて、次のステップを期待します。

人材を基本にグローバル戦略

基本方針の最初に挙げられている「海外」について、タイにおける活動実績が紹介されています。現地化を重視しつつ、ADEKAのCSR経営をグローバル展開するにあたり、「人材」の育成を大切にされていることが分かります。今後は海外との人材交流を通して、さらにADEKAの環境経営を拡大していただきたいと思います。同様に「人材」の項では、日本における人材育成のお話があり、日本と海外の双方向の活動が期待されます。また「人材」の観点から、ワークライフバランスを意識した働き方を提案することにより、女性の活躍も期待したいと思えます。

環境保全活動

ADEKAグループでは、目標数値について「対前年比」を採用されているため、2012年度実績は未達成が多くなりました。これは東日本大震災の影響で2011年度実績がイレギュラー(低い数値)であったことによるものです。生産量の拡大により総量は比例して増加するため、目標設定について、活動へのモチベーションに繋げるための工夫が必要ではないでしょうか。2012年活動実績として明石工場の食品廃棄物リサイクルが紹介されています。廃棄物から燃料や肥料を作ることは循環型社会の重要な社会課題であり、今後に大きな期待が寄せられる活動だと思えます。

第三者意見をいただいて

取締役常務執行役員 百瀬 昭

ADEKAグループのCSRレポートへの評価と貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

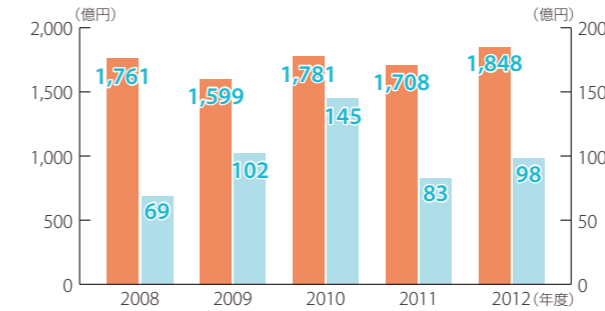
今回の報告書では、創立100周年にあたる2016年度に「売上高3,000億円のグッドカンパニーを目指す」という目標を掲げ、その実現に向けて2012年度からスタートした中期経営計画「STEP 3000」の5つの基本方針の進捗状況と、本業を通じた代表的なCSR活動の取り組みについて重点的に掲載し、持続可能な社会の構築に向けて積極的に取り組む姿勢を、ステークホルダー

の皆さまに、わかりやすくお伝えするように心がけました。

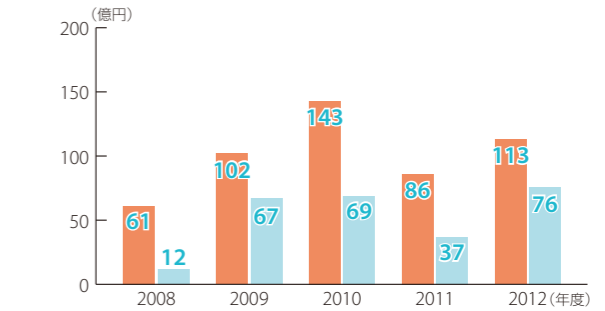
國部先生からご評価いただいた点は今後の活動の励みにしていくとともに、「マテリアリティの観点からのKPI決定」や「ステークホルダーとのコミュニケーション」、「環境保全活動の目標設定」など、ご指摘いただいた課題もふまえ、CSR活動のさらなる推進に取り組み、ステークホルダーの皆さまに信頼されるグローバル企業を目指してまいります。

財務データ

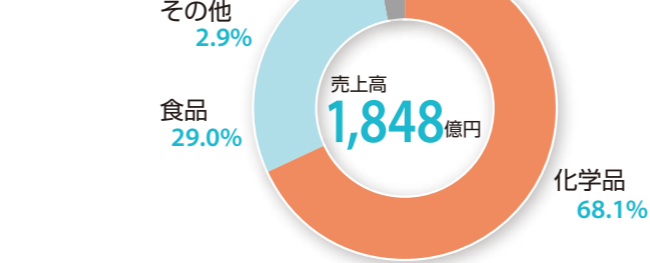
連結売上高・営業利益の推移



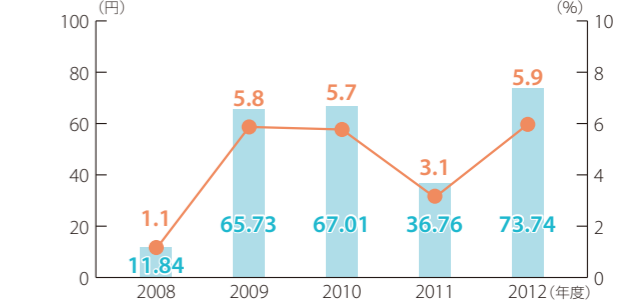
連結経常利益・当期純利益の推移



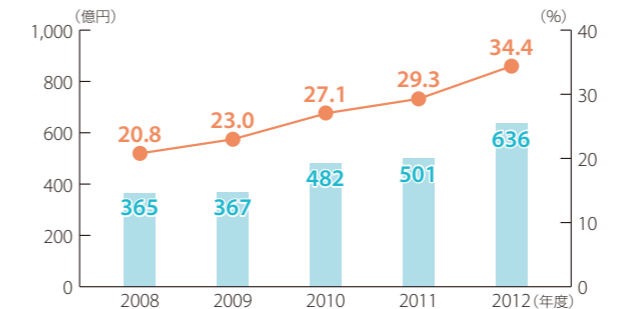
連結売上高の事業別内訳



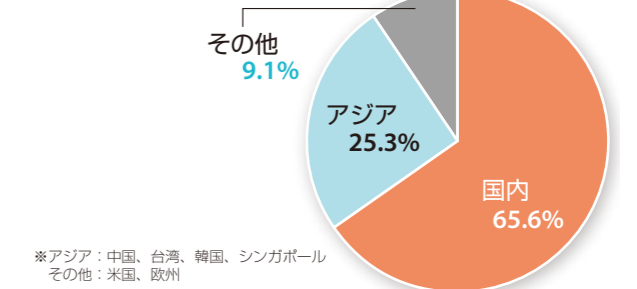
一株あたり当期純利益、ROE



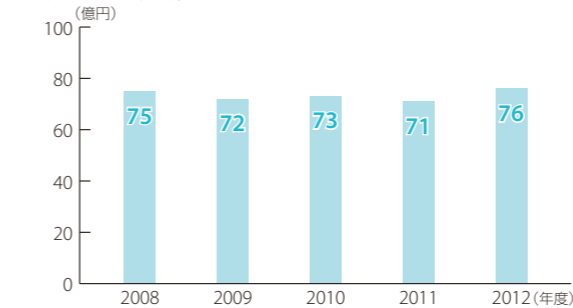
海外売上高と海外売上高比率の推移



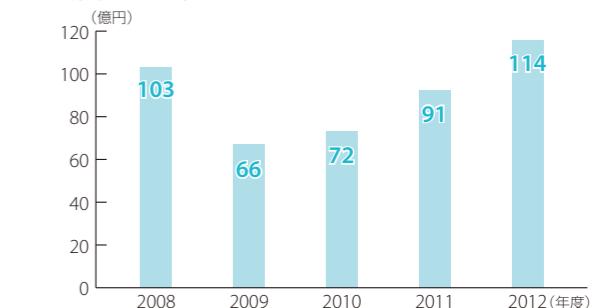
地域別売上高



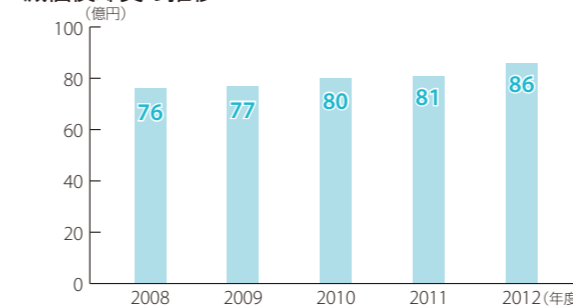
研究開発費の推移



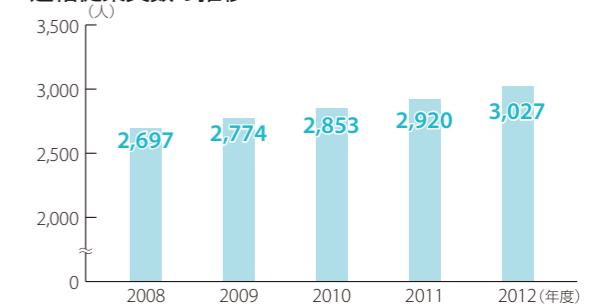
設備投資額の推移



減価償却費の推移



連結従業員数の推移



グループネットワーク

株式会社ADEKA

本社 〒116-8554 東京都荒川区東尾久七丁目2番35号
ホームページアドレス <http://www.adeka.co.jp>

支社・支店・営業所

- 大阪支社
- 名古屋支店
- 福岡支店
- 札幌営業所
- 仙台営業所

研究所

- 尾久中央開発研究所
- 浦和開発研究所
- 久喜開発研究所
- 関西食品開発室

生産工場

- 鹿島工場
- 鹿島工場西製造所
- 千葉工場
- 三重工場
- 富士工場
- 明石工場
- 相馬工場

国内主要関係会社

- 日本農薬(株)
- ADEKA ケミカルサプライ(株)
- ADEKA ライフクリエイト(株)
- (株)旭建築設計事務所
- オキシラン化学(株)
- 関東珪曹硝子(株)
- ADEKA クリーンエイド(株)
- (株)東京環境測定センター
- (株)コープクリーン
- 水島可塑剤(株)
- ADEKA ファインフーズ(株)
- ADEKA 総合設備(株)
- ADEKA 物流(株)
- ADEKA 食品販売(株)
- (株)ヨンゴー
- 上原食品工業(株)

海外主要関係会社

米国

- ADEKA USA CORP.
- AMFINE CHEMICAL CORP.
- AM STABILIZERS CORP.

ドイツ

- ADEKA EUROPE GmbH

フランス

- ADEKA PALMAROLE SAS

韓国

- ADEKA KOREA CORP.

中国

- 艾迪科(上海)貿易有限公司
- 艾迪科精細化工(上海)有限公司
- 艾迪科精細化工(常熟)有限公司
- 艾迪科食品(常熟)有限公司
- 長連旭(上海)貿易有限公司
- 國都化工(昆山)有限公司

台湾

- 長江化学股份有限公司
- 台湾艾迪科精密化学股份有限公司

タイ

- ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.

シンガポール

- ADEKA (ASIA) PTE.LTD.
- ADEKA (SINGAPORE) PTE.LTD.

マレーシア

- ADEKA FOODS (ASIA) SDN.BHD.
- FELDA IFFCO OIL PRODUCTS SDN.BHD.

インド

- ADEKA INDIA PVT.LTD.

アラブ首長国連邦

- ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC

ブラジル

- ADEKA BRASIL LTDA.



お問い合わせ先

法務・広報部 TEL:03-4455-2803 FAX:03-3809-8210 メールアドレス:somu@adeka.co.jp